



ヒーロー洗脳悪堕ち！



淫紋の呪いで魔物化し
欲望のままに一般市民と性行為する哀れな戦士

20XX年

「魔物」と呼ばれる存在がこの世界に現れた。。。。

彼らは別次元で進化した生物で

人間と友好関係を築く為、

この世界にやってきたらしい。。。。

グル
ル
ル
ツ

だが。。。。友好関係を築く手段が問題だった。。。。

人間を改造し魔物に変える事で。。。。

友好的な仲間を増やそうとしていたのだ。。。。



欲望のままに生きる「魔物」からこの世界を守る為……
警察は魔物殲滅部隊「魔断」を結成。

身体能力を高める「魔断スーツ」を来た隊員達は
目覚ましい戦果を上げ、魔物を殲滅していった……

「もう、お前一人しか残っていないようだな……」

ただ……魔物達に焦りは無かった……

敵が強ければ強いほど……魔物にした時役立つからだ……



「人間という種族は強いですねえ。。。♡」

その知恵。。。我らの繁栄に役立てたい♡」

「貴様らに繁栄など無い！」

死にたくなければ元の世界に帰れ！」

「私達は戦うしか

無いようですねえ。。。」



「。。。」

ぐへへへへ

「呪術師 汗すすり。。。参る」

「いっ。。。口の中に暗器を。。。」

「。。。だが。。。その程度の攻撃。。。」

「魔断スーツには効かん！」

「知っていますよ。。。魔物に勝てる

耐久力があるスーツですからねえ♡」

「。。。でも。。。呪いは防げなかつたようですね♡♡」



「なっ！……何「れっ……！」

「スーツが……」

はっ

なんで……

うっ
うっ
うっ

んん
んん
んん

「暗器に呪いを掛けておいたんですよ……♡♡♡

人の欲望を増幅し……魔物に変える淫紋を……♡♡♡」

「呪い……「こいつらそんな能力まで……」



「無理は体に良くありませんよ。。。♡♡魔断の隊員さん♡♡」

「ホラ。。。♡♡勃起したクリトリスを

指でこすって。。。♡♡」

「ああ。。。ダメなのにつ。。。♡♡」

「おっさん。。。さっさと。。。♡♡」

「クリちゃん。。。きもちいら。。。♡♡」



イク時はちゃんと。。。マンコイクっ♡♡って

宣言しながらイクってくださるね♡♡

「はあっ。。。あんっ。。。い。。。言いたくないっ。。。♡♡」

「あぁ。。。淫紋の力で

強制的にイクのを止めちゃうから許さるかな？」

まんじゅ♡♡

グッ♡♡

「それっ。。。だめっ。。。言っからっ♡♡」

「♡♡っ♡♡マンコイクっ♡♡っ♡♡」



「いいですねえ。。。♡♡従順な人間は好きですよお。。。♡♡」

「許さないっ。。。っ。。。」

「。。。んな。。。んな辱め。。。」

「怖い怖い。。。私をどうするつもりなのかな？」



「でも。。。逆レイプは悪い事ですよ♡♡」

「人間と魔物。。。仲良く交尾して友好を深めましょう♡♡」

「仲間を沢山殺した。。。♡♡」

「敵なのに。。。♡♡ 良いの？」

ニヤァ...

「ええ。。。♡♡」

「魔物は人間と♡♡」

「仲良くなりたいたけですから。。。♡♡」

「魔物がこんなに心優しくなったなんて。。。♡♡」

「汗すすり様……私目が覚めました……♡♡」

魔物と人間はもつと仲良くなるべきですよね♡♡」

「私と……交尾してください……♡♡」

「交尾して……汗すすり様の逞しいチンポ

気持ち良くしてあげたいんです♡♡」

「いよいよ……今からタツプリアし合おうねえ♡♡」



「ぬふぅ……。人間のメスのマンコは気持ちいいですねえ。。。。♡♡」

「トロっトロの肉ヒダが

さらさらしく吸い付いてくれますよ。。。。♡♡」

「あんっ……。魔物チンポ。。。。凄いい。。。。♡♡」

「この穴なら毎日でも使いたい。。。。♡♡」

「魔物を沢山殺してしまった贖罪として。。。。」

どんな時でも股を開いてチンポを受け入れます♡♡」

あんっ♡♡

「だから……愚かな私を許してください……」

「ふいふ素晴らっらおまひす……♡♡」

「それだけ心が淫紋に浸食されていけば……」

すぐに魔物になれますよ……♡♡」

「わたしも……魔物に……♡♡」

「魔物になったら……私の妻として

死ぬまで魔物を産み落とさせてあげますからね……♡♡」



「やった！汁すすり様のお嫁さんになれるなんて♡♡」

「じゃあ。。。魔物の精を注いであげますね。。。♡♡」

「はああ。。。あつたかい。。。♡♡」

ド

ド

フー

「子宮が美味しい汁」

飲ませて貰えて喜んで。。。♡♡」

ド

キモキモ

「死ぬまで性処理用肉袋として使ってくださいね旦那様♡♡」

「心が完全に魔を受け入れたようです。。。。。」

淫紋があなたを魔物に変えてくれましたよ。。。。♡♡」

「素敵。。。。幸せが溢れてくる。。。。♡♡」

「だから魔物さん達は。。。。」

人間を魔物に変えようとしていたんだ♡♡」

「そうです。。。。自分の欲望を開放し

種族を超えて愛し合う素晴らしさを知って欲しかったのです♡♡」



「あっ……今……お腹の中で何かが……♡♡」

「魔物は一度の交尾で確実にメスを孕ませるのですよ♡♡」

「素敵……旦那様の赤ちゃんが

お腹の中にいるんだ……♡♡」

「呪術師としての能力を持った

強力な魔物になるでしょうね……グフフ♡♡」

「早く産んであげて……人間のメスと交尾させてあげたいな♡♡」



「そらだ。。。名前を聞いていませんでしたね？」

「名前。。。人間だった頃の名前忘れちゃった♡♡」

「そらですか。。。では今日から

マンコ怪人ヴァイラヴァーラと名乗りなさい♡♡」

あん♡

ムン♡

ん♡

「私のいやらしいマンコにピッタリな名前♡♡」

ありがとうございます！ぞいます旦那様。。。♡♡♡♡」

「可愛い妻とは。。。可愛い名前が無いとねえ♡♡」

「そらだ。。。私の妻マンコ怪人ヴィラヴィーラとしての

初仕事を頼もうかなあ。。。♡♡」

「今から街へ行って。。。人間のオスに

魔物と交尾する幸せを教えてあげなさい♡♡」

「分かりました。。。旦那様。。。♡♡」

「呪術師である私の精液を飲み干した君の子宮なら。。。」

「人間のオスを誘惑する匂いが出せるから

スグに交尾できると思うよ。。。♡♡」



マンコ怪人ヴィラヴィーラとして生まれ変わった彼女は。守るべき人間を魔物に変える非情な存在となっていた。

「私はマンコ怪人ヴィラヴィーラ」

「そんなに怖がらなくていいのよ。♡♡♡♡♡」

「魔物ってね。♡♡♡♡♡とっても素晴らしいの♡♡♡♡♡」

「あなた達にも。♡♡♡♡♡その事を教えてあげる♡♡♡♡♡」

「な。♡♡♡。なんだあいつー」

「魔断スーツを着た魔物？」





「ほーら。。。私のオマンコの匂いを嗅いで。。。♡♡♡

おちんちん。。。気持ち良くなってきたでしょ♡♡」

「おい。。。逃げようぜ。。。」

スウウウ

「その素敵な人間チンポ。。。」

私の体で気持ち良くしてあげるからね。。。♡♡♡」

「さあ。。。ズボンを脱いで。。。♡♡♡」

「はい。。。ヴィラヴィーラ様。。。♡♡」

「ふふっ。。。素敵なチンポ。。。はむっ。。。♡♡」

ちゅ「何やってるんだよー！そいつ魔物だぞー！」

ちゅいっ♡♡

「はああ。。。チンポがとろけそう。。。♡♡」

魔物のロマンコ最高。。。♡♡」

うっ♡♡

「いっぴやい。。。しゃせいでえ。。。♡♡」

「じゅる。。。じゅるるるっ。。。♡♡」

「あああ。。。射精っ。。。しますっ。。。♡♡」

「んふっうっ。。。おいひい。。。♡♡」

「まもによのロまん。。。きもちよかつら。。。♡♡」

「最高です！魔物のメスと交尾したくなりました！」

「ふふっ。。。SSU。。。♡♡」

「あなたとも……気持ちいい事したいなあ……♡♡」

「はなせっ！……魔物とセックスなんかしたくないっ！」

「私も初めはそうだった……でも旦那様と交尾して変わったの♡♡」

「魔物と人間は……もつと仲良くなるべきだって……♡♡」

「さあ……私のいやらしい魔物マン」の

匂いを嗅いで……心をひらいて♡♡」



「ああ。。。。女と交尾したい。。。。♡♡♡♡♡」

無理矢理犯して自分の子供を孕ませたい。。。。♡♡♡♡♡」

「ふふっ。。。。本性が出てきた。。。。♡♡♡♡♡」

「魔物のメスは。。。。複数の子を一度に孕めるの。。。。♡♡♡♡♡」

「はやく。。。。早くマンコ使いたいっ。。。。」

「今は旦那様の子を孕んでるけど

あなたの精子でも可愛い魔物を作ってあげるね。。。。♡♡♡♡♡」



「うひひ。。。。魔物マンコ最高♡♡」

「避妊せず快樂とマーキングの為にマンコ使うの最高の♡♡」

「これだけ欲望が強ければ。。。。魔物となった時

「沢山の人間のメスを孕ませられそう♡♡」

「射精したくなったら

「とるっとなるの淫乱肉穴にタップリ流し込んでね。。。。♡♡」

「この穴は全てのオスの為の精液便所だから。。。。♡♡」



『いっしょに魔物マンコでイグうううううううう。。。♡♡』

『あなた達。。。魔物のメスや人間のメスと

もっともっと気持ちいい事したいでしょ。。。♡♡』

『私の旦那様の呪術で魔物に改造してもらいなさい。。。♡♡』

そうすれば好きな時に好きなだけ交尾できるわよ♡♡』

『か。。。改造して貰って魔物になります。。。♡♡』



「ねえ君……私が交尾してた時……ごっすり覗いてたでしょ♡」

「う……うめんなさいっ……」

殺さないでっ……」

「殺したりしないわ♡♡」

ほあ♡♡

「魔物はみーんな人間と仲良くなりたいたいと思っているの……♡♡♡」

「君が……私の体を好きにしたいっというなら♡♡」

どんな事でもしてあげるよ♡♡」



「さあ。。。本性を晒して。。。♡♡」

「僕。。。魔物のお姉さんのマンコ舐めたい。。。♡♡♡♡♡」

マン汁で。。。顔にマーキングして欲しい♡♡♡♡♡」

「素敵な欲望。。。晒しちゃったね。。。♡♡♡♡♡」

私も君みたいな可愛いコにおまんこ舐めさせたいな♡♡♡♡♡」

「じゃあ。。。いまからエッチな交流しようか。。。♡♡♡♡♡」



「はあ。。。はあ。。。♡♡」

「じゅる。。。じゅる。。。♡♡」

「んっ。。。可愛い顔してっ。。。凄くいやらしい舐め方。。。♡♡」

はっ♡
はっ♡

はっ♡
はっ♡

チッ♡
チッ♡

♡

「クリトリスや尿道に吸い付いてっ。。。マンコに美味しい汁出すようにっ。。。促してる♡♡」

「こんな事されたらマン汁垂れ流しになっちゃうっ♡♡」

「あっ。。。はああ。。。♡♡まんこイっちゃった。。。♡♡♡♡♡」

魔物のマン汁でマーキングされる気分はどう。。。？』

『もっと沢山のマンコ。。。マーキングされたい♡♡♡』

「あなたもきつと。。。良い魔物になるわ。。。♡♡♡♡♡」

『魔物になったら人間のメスのマンコをいっぱい舐めて。。。』

魔物とでも喜んで交尾するメスの獣に変えてあげなさい♡♡♡』



「ああ。。。♡♡♡手コキだけで脳ミンがとるけそうだ。。。♡♡♡」

「私のマンコから出ているフェロモンが

脳をとるけさせているんです。。。♡♡♡」

「普通じゃ味わえない幸福感で満たされながらイってってくださいね♡♡」

「おお。。。もっとう早く扱いて脳ミンをトロトロにしてっわ♡♡」



「うっ。。。。イグううう。。。。♡♡」

「最高だ。。。。死ぬまでずっと。。。。」

「魔物とエロい事してたいぜ。。。。♡♡」

「おじさま達。。。。」

「家族いますよね。。。。♡♡」

「私の所に連れてきてくれれば。。。。」

「もつと気持ちいい事してあげますよ。。。。♡♡」

「わかった！今すぐ息子を連れてくる！無理矢理にでもな！」



「親父。。。おかしくなつちまった。。。」

「魔物に変えられちまった。。。」

「お父様は。。。良い方向に変わったのです♡♡♡
魔物と人間が仲良く交尾すれば。。。それが分かるはずよ♡♡」

「あなた達も。。。私のマンコフェロモンをたっぷり吸って
欲望に忠実な獣に変わりました。。。♡♡」



「もう。。。脳ミソがとるっとなるんじやない♡♡」

「。。。魔物の女なのに。。。」

「交尾してえ。。。♡♡」

「恋人みたいに。。。ネットリとした発情セックスしてえ♡♡」

「そうそう。。。心が魔物を受け入れれば。。。」

「後は簡単に改造出来るからね。。。♡♡」

「旦那様の淫紋の力で。。。フラツ♡♡」



魔物殲滅部隊「魔断」の隊員だった彼女は
人々を魔物に変える悪魔のような存在となった。

そのスーツのせいで物理攻撃も効かず
他の隊員達も次々に魔物に変えられたと聞く。

ニタァァァ



快楽を教え込まれた人間を元に戻す手段も無く
ただひたすら魔物達が増え続けるこの世界。

きつと人類が減び

全ての人が魔物に変わる日も
そう遠くはないだろう。





製作

サークル「聖クロネコ騎士団」

ブログ

<http://seikuroneko.blog137.fc2.com/>

著作者の許可無しに

この作品をインターネット公開
無断配布する事を禁止します。

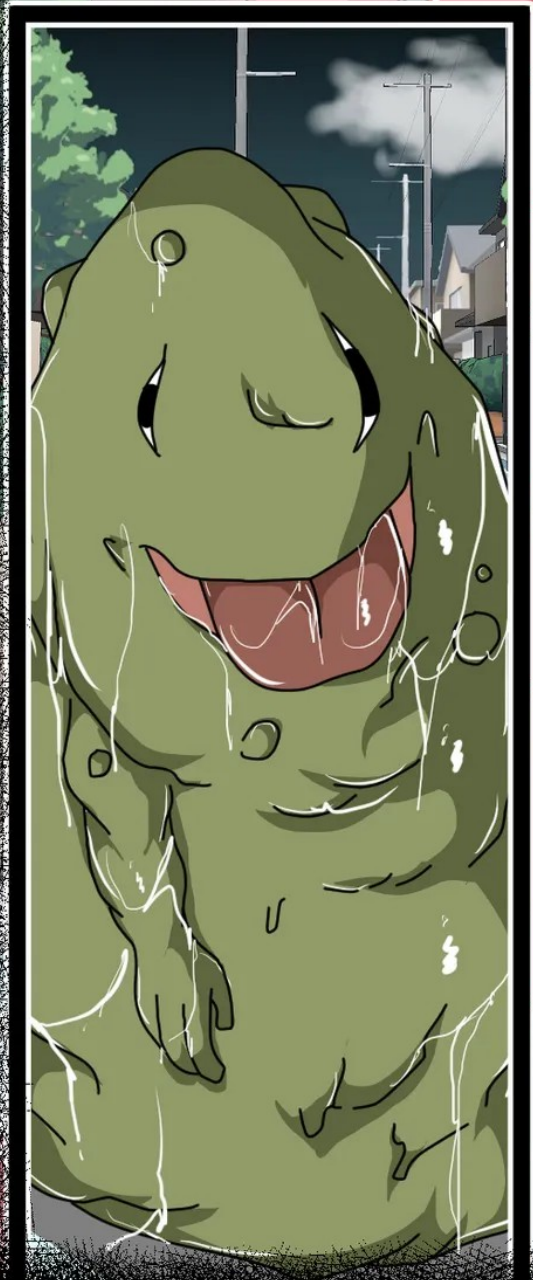


CG集画像

台詞無し

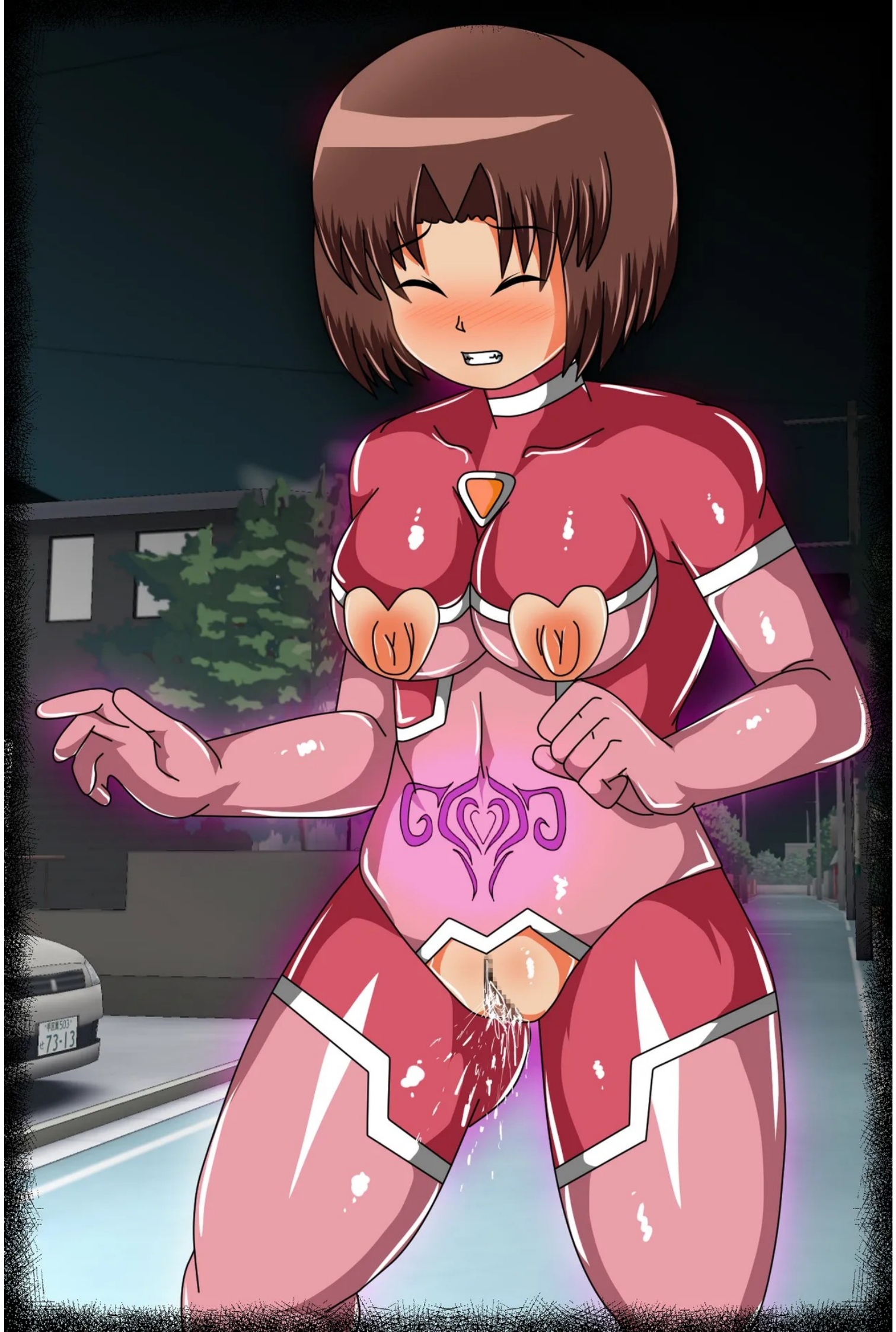




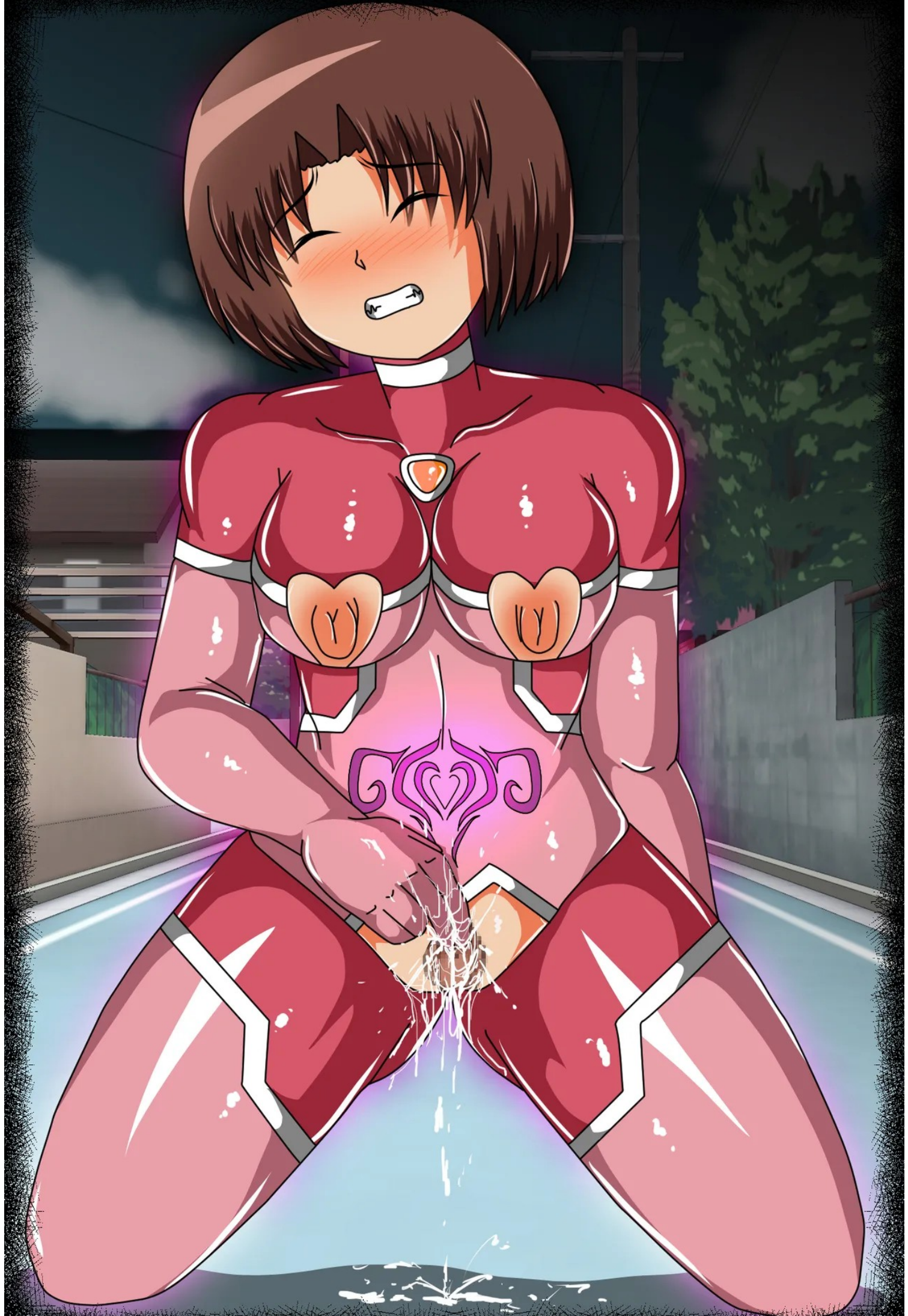




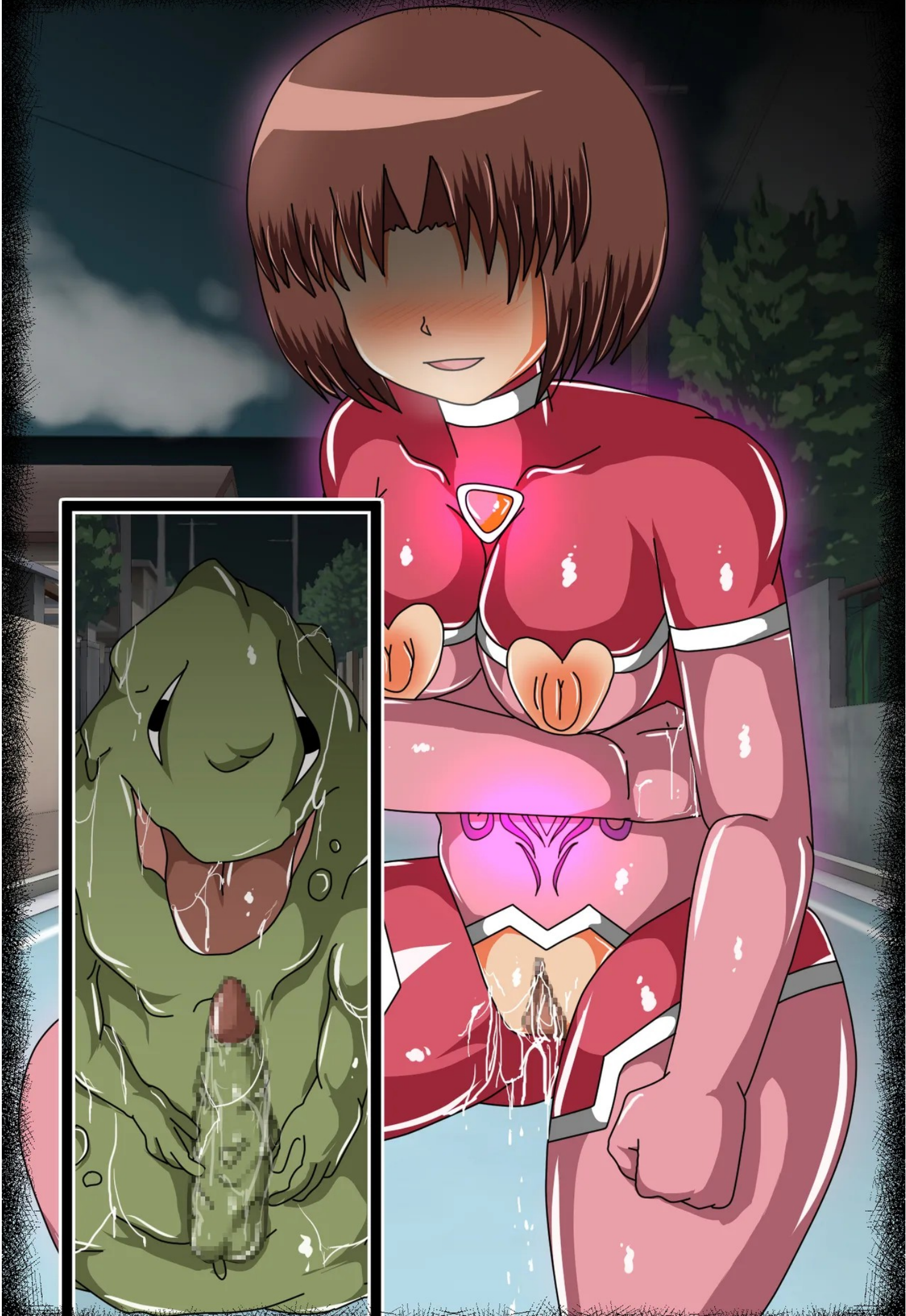


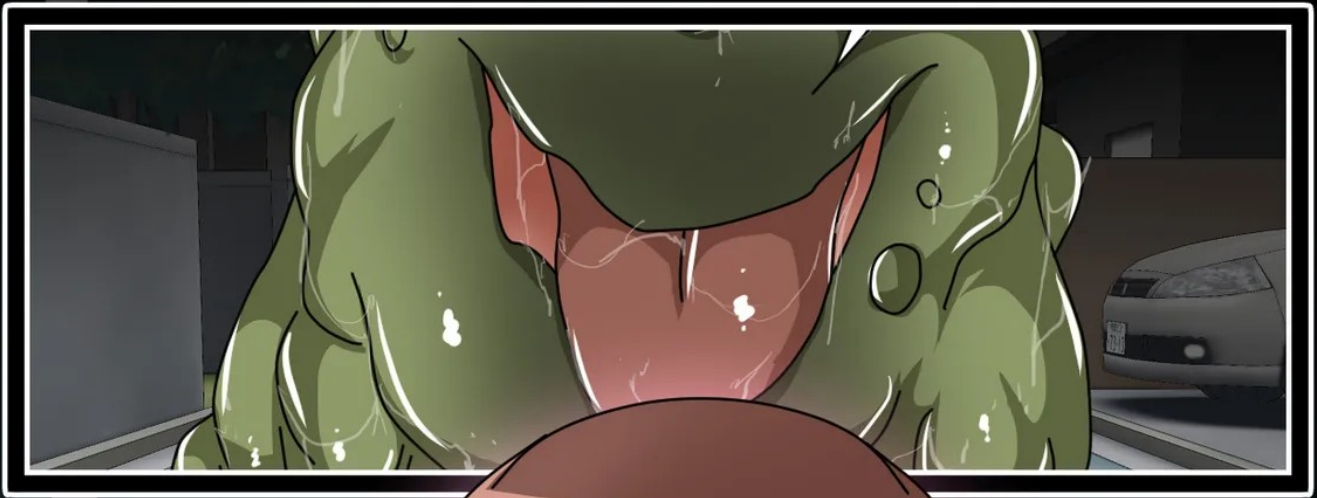


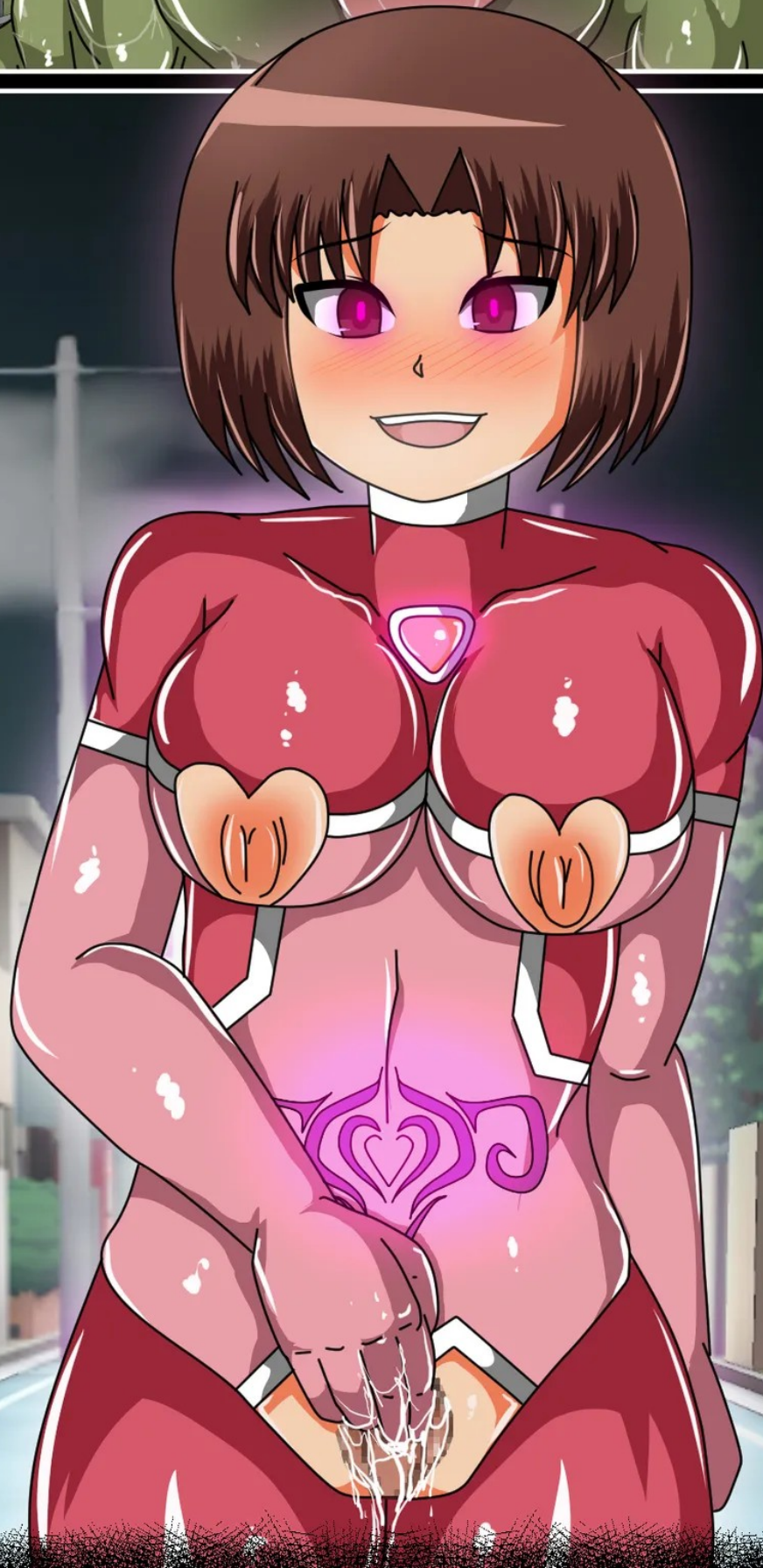
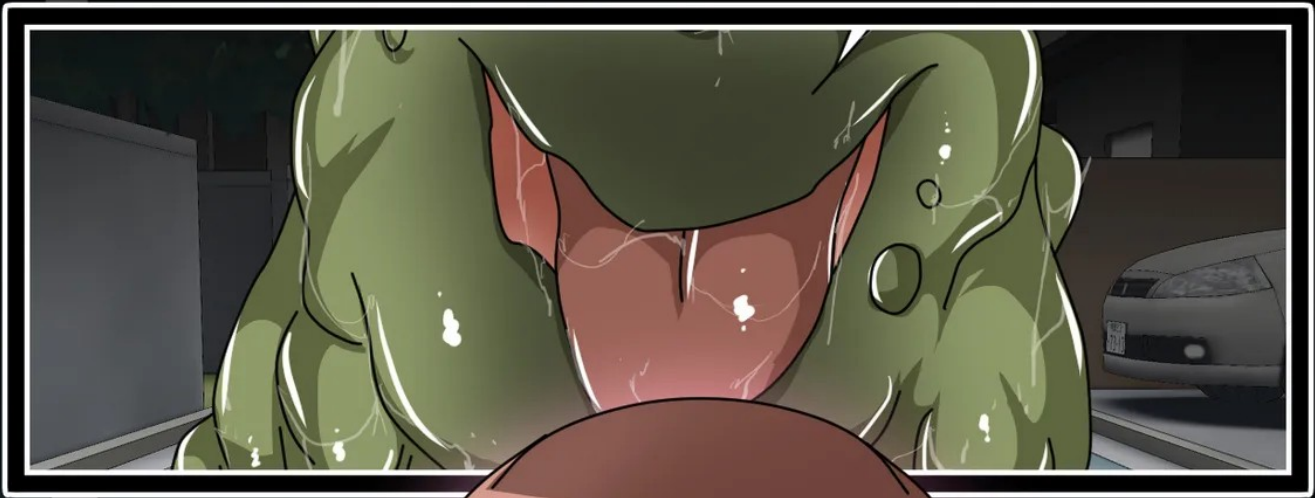










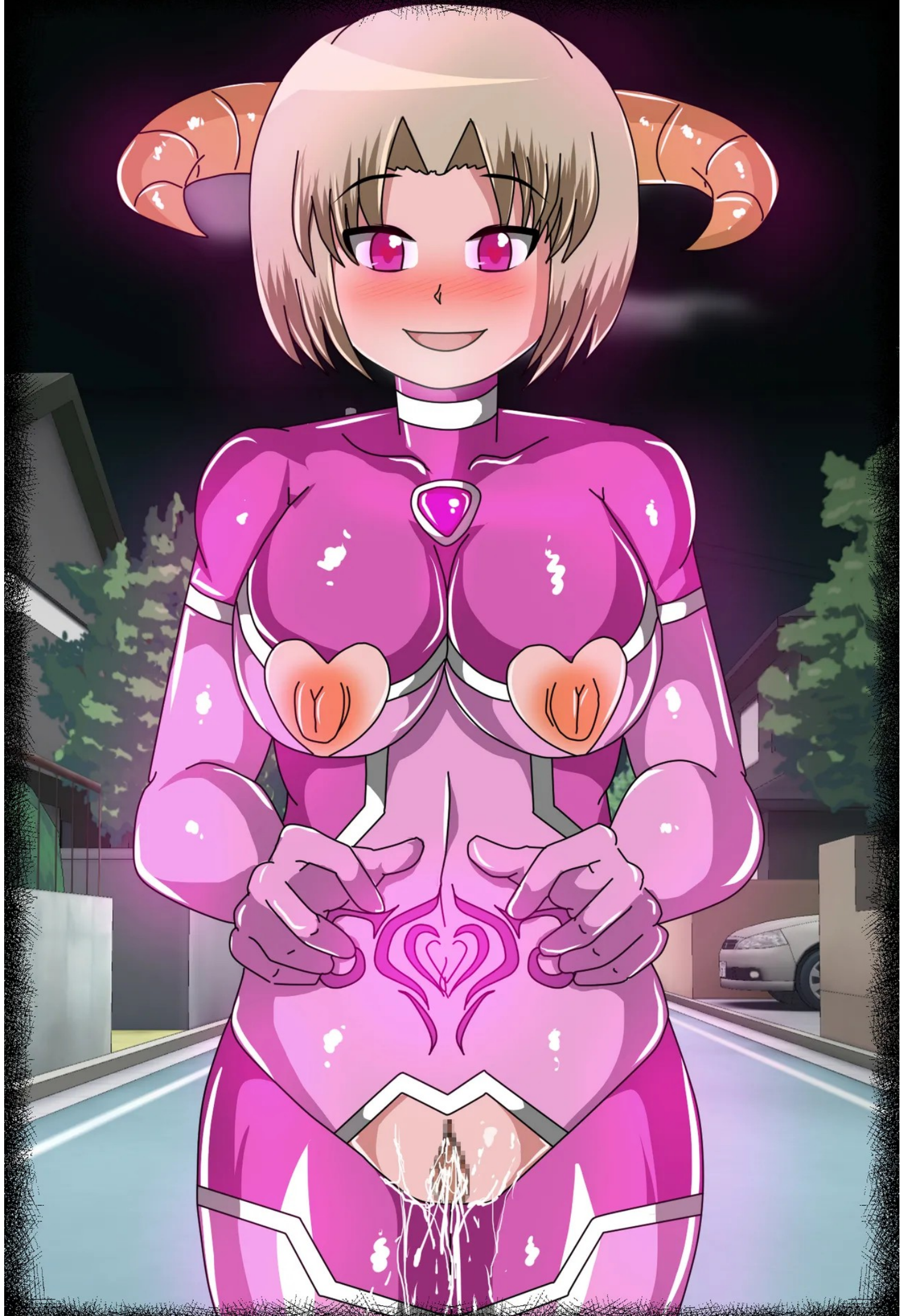


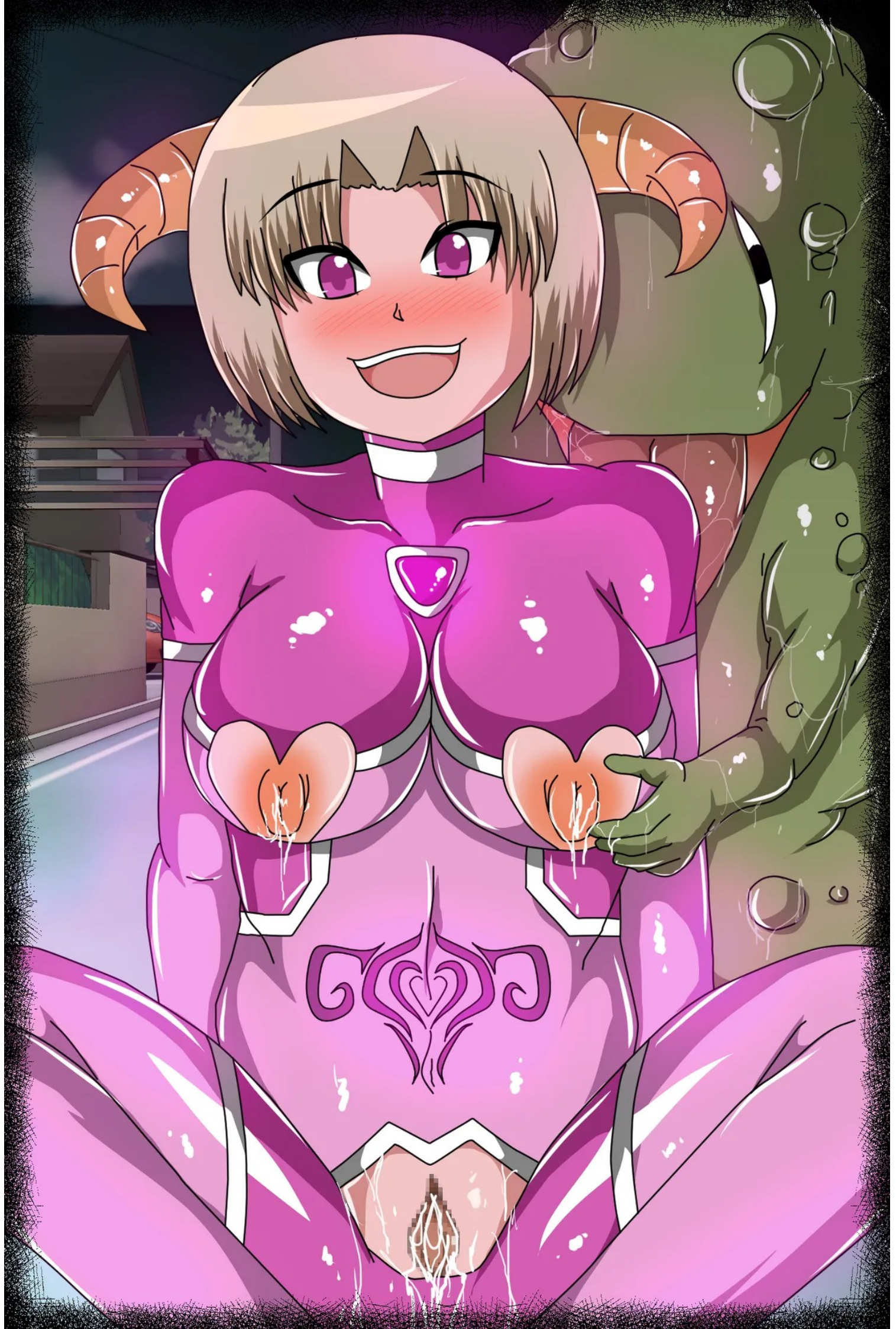


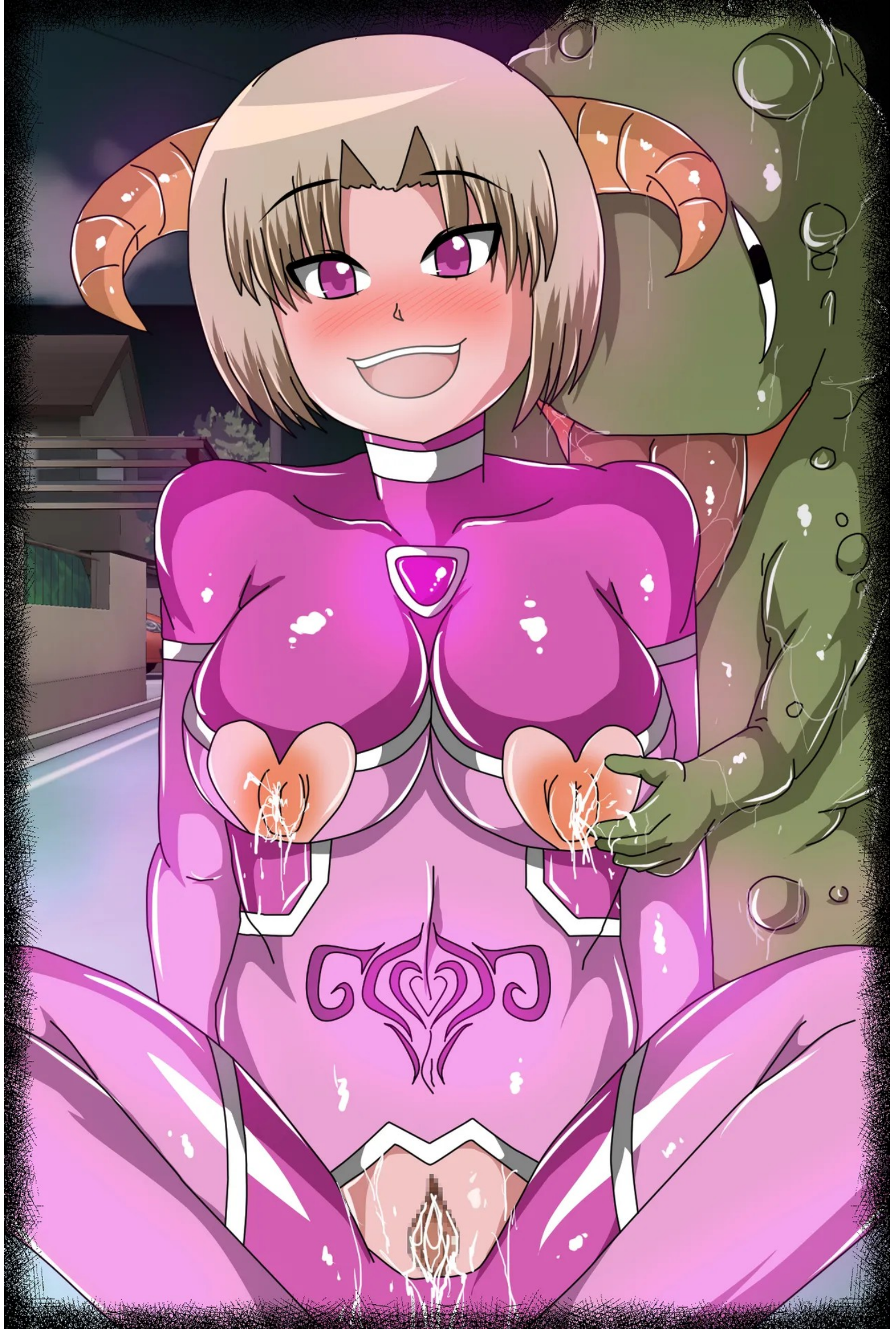


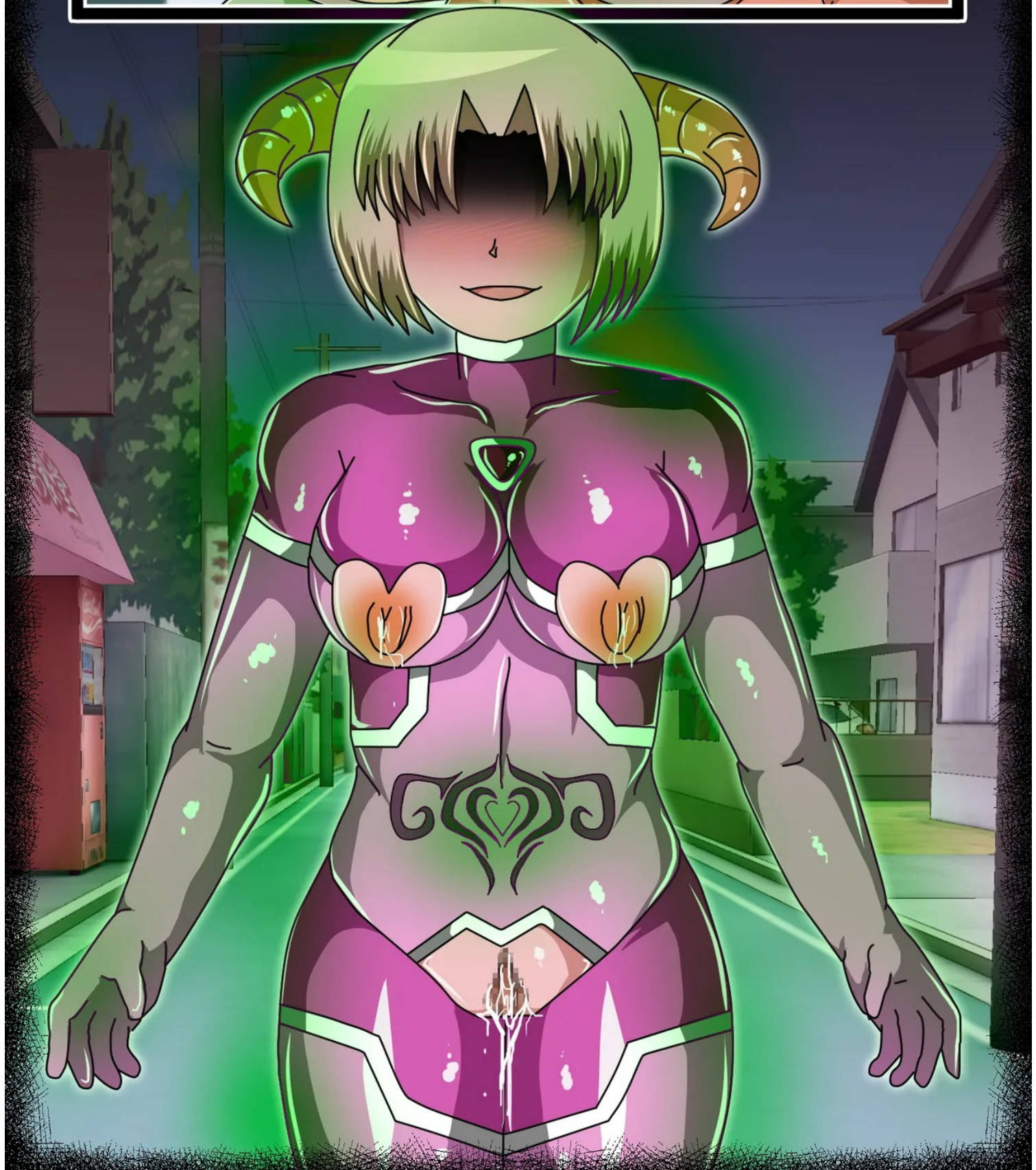


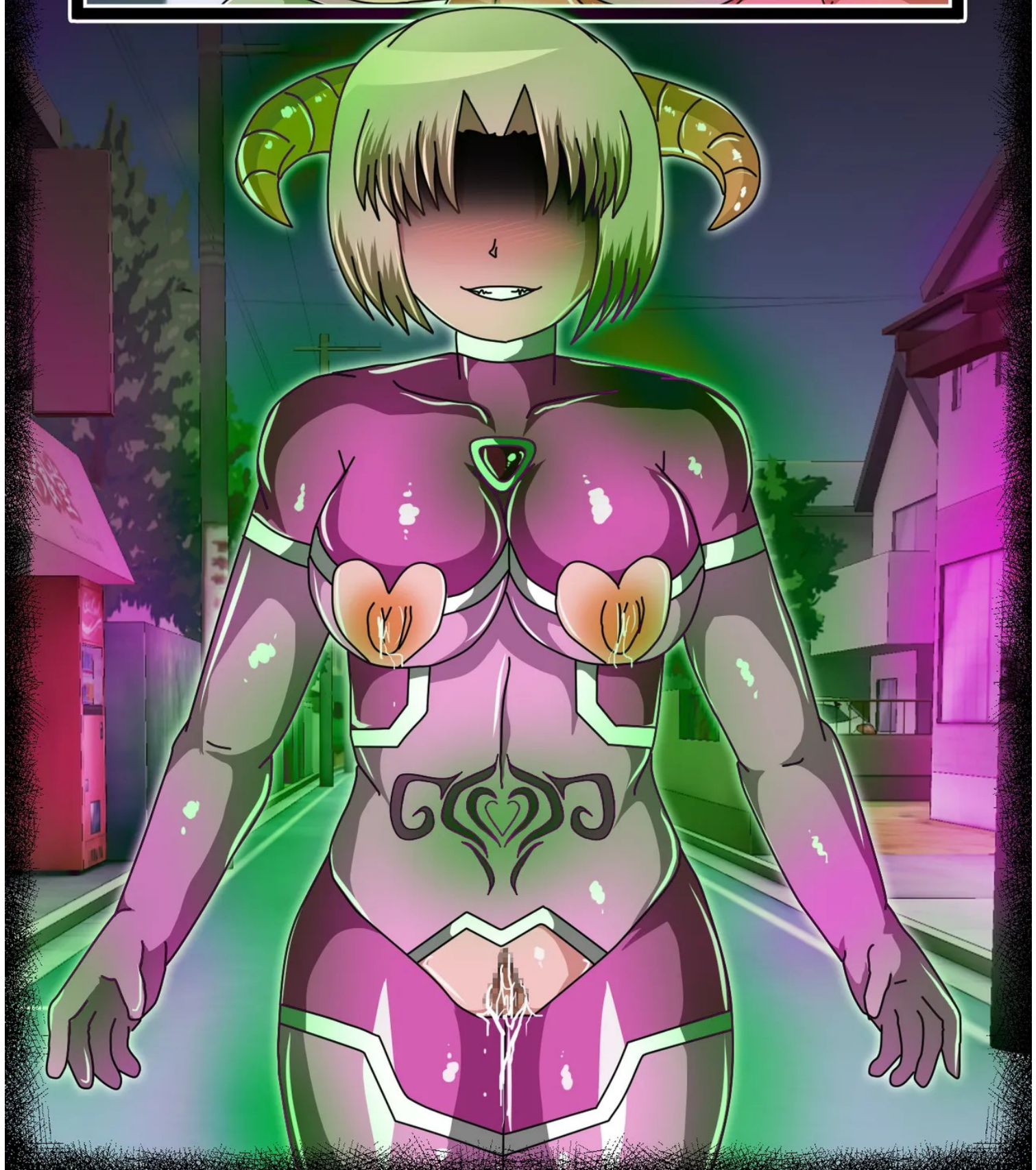






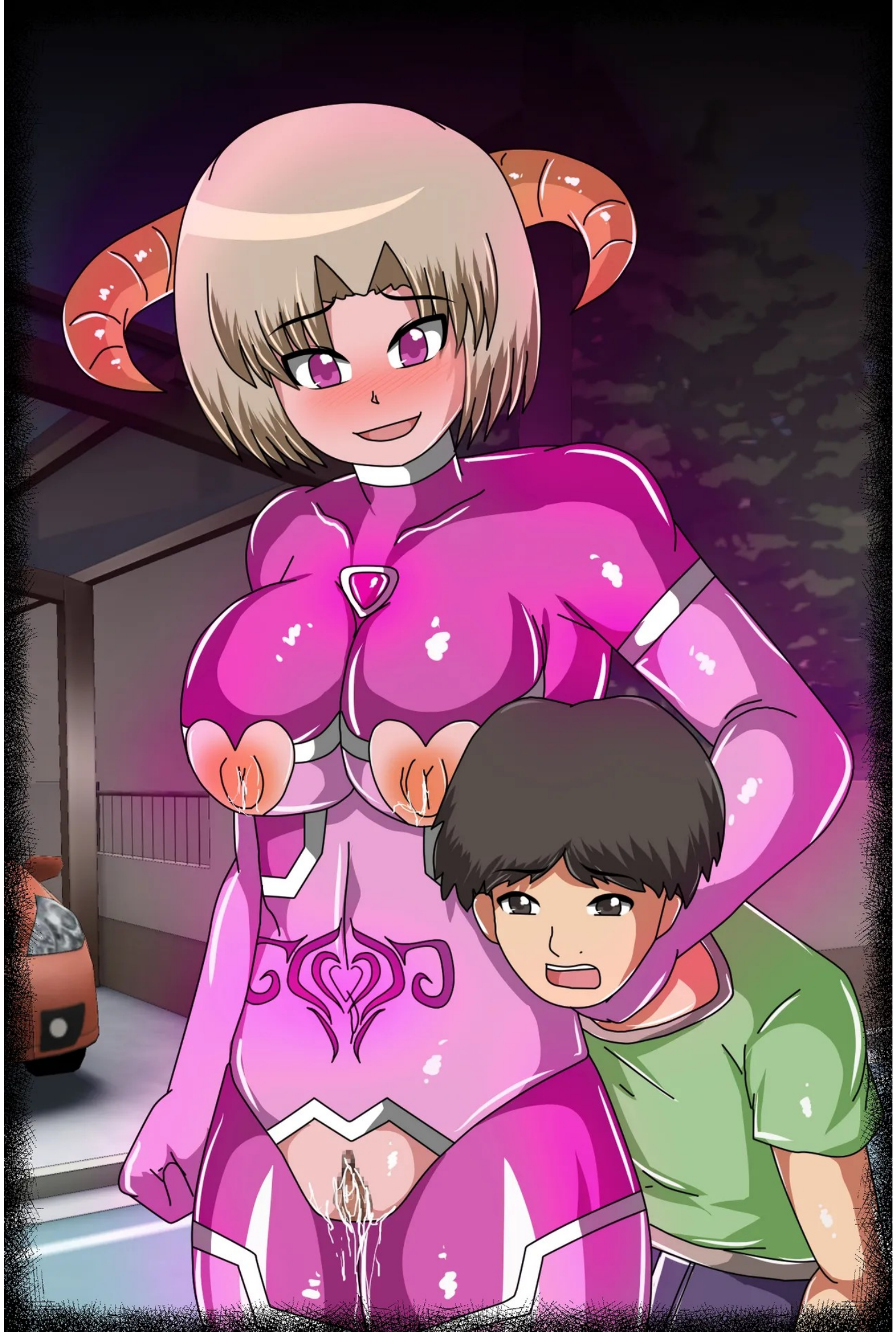


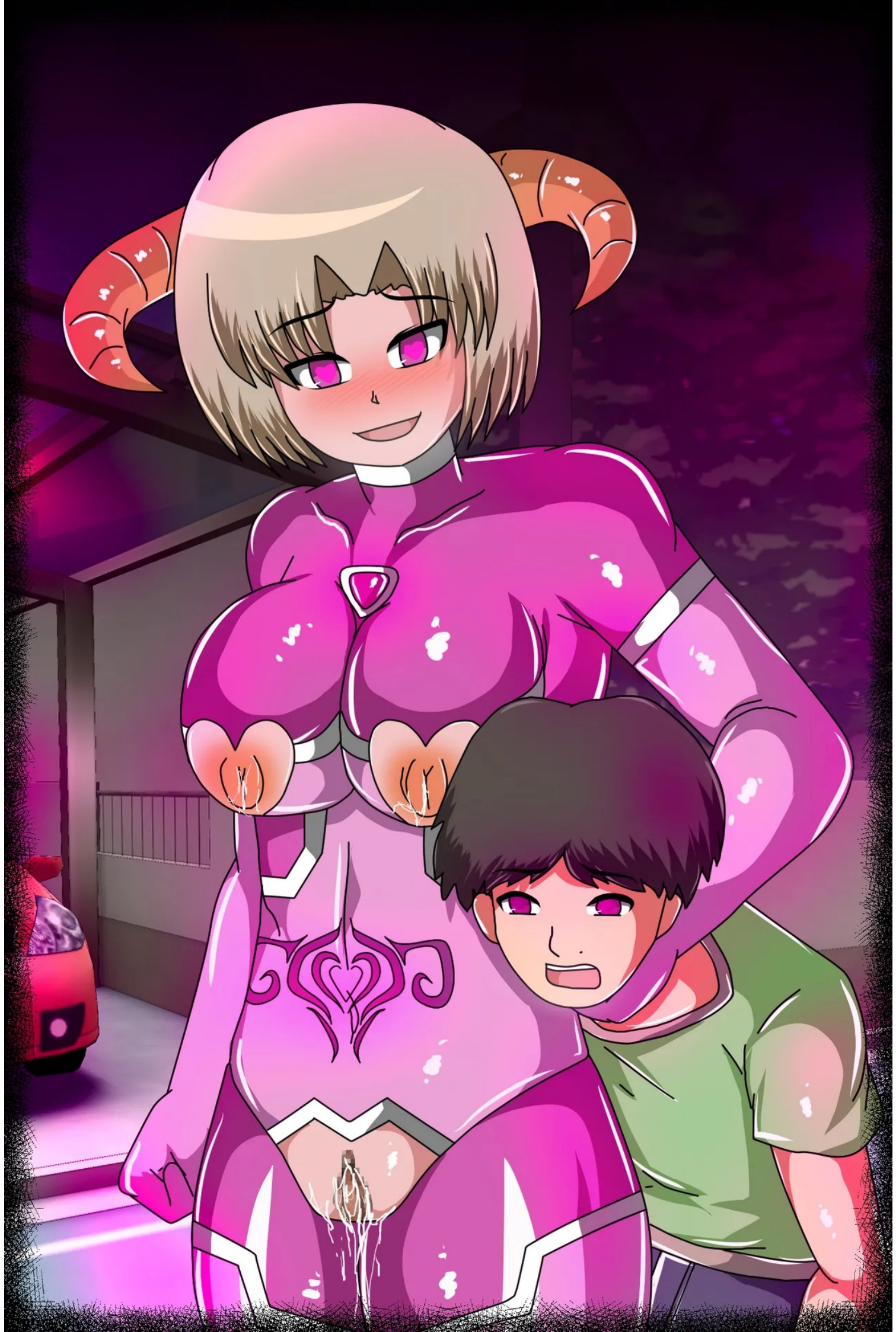


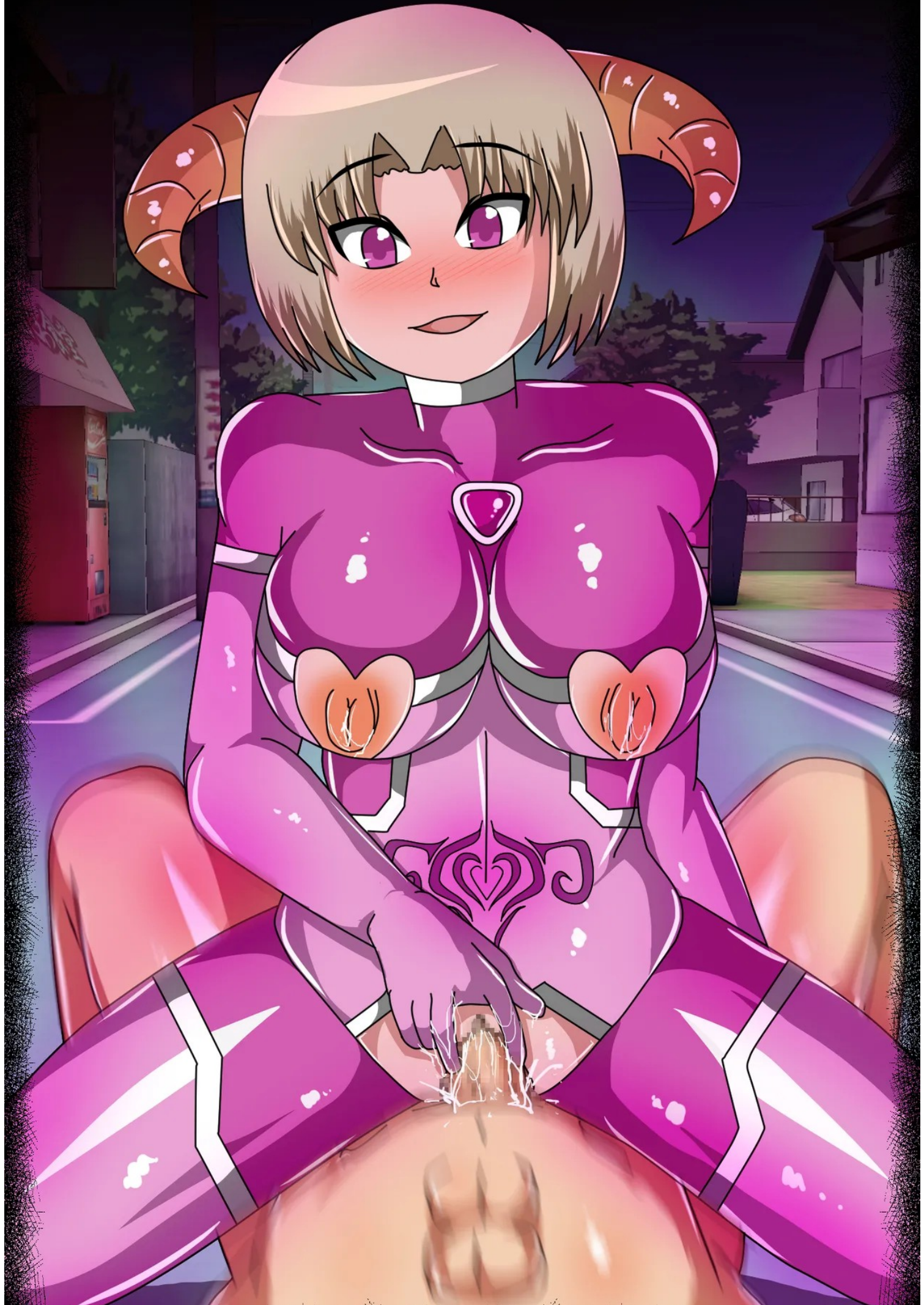












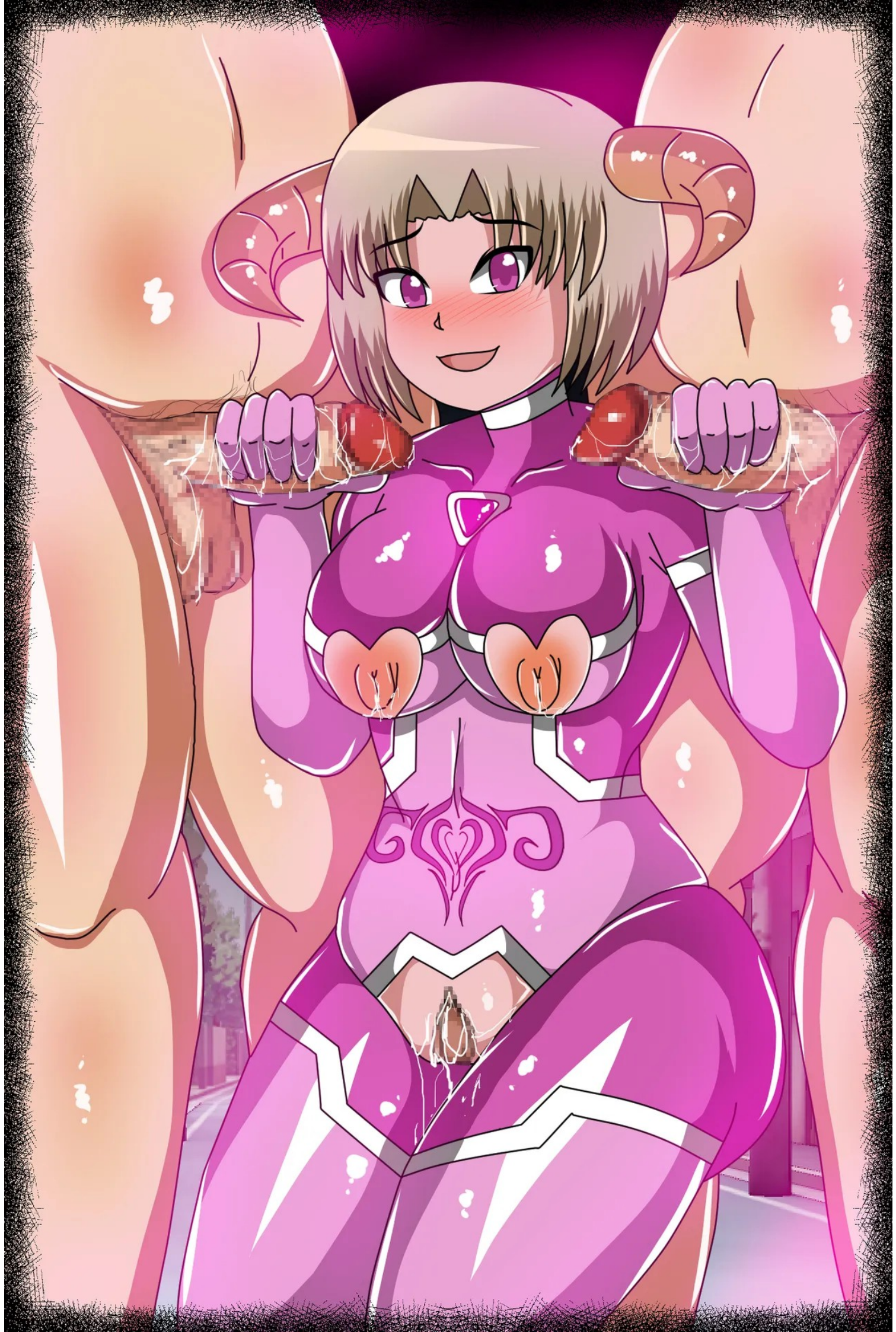


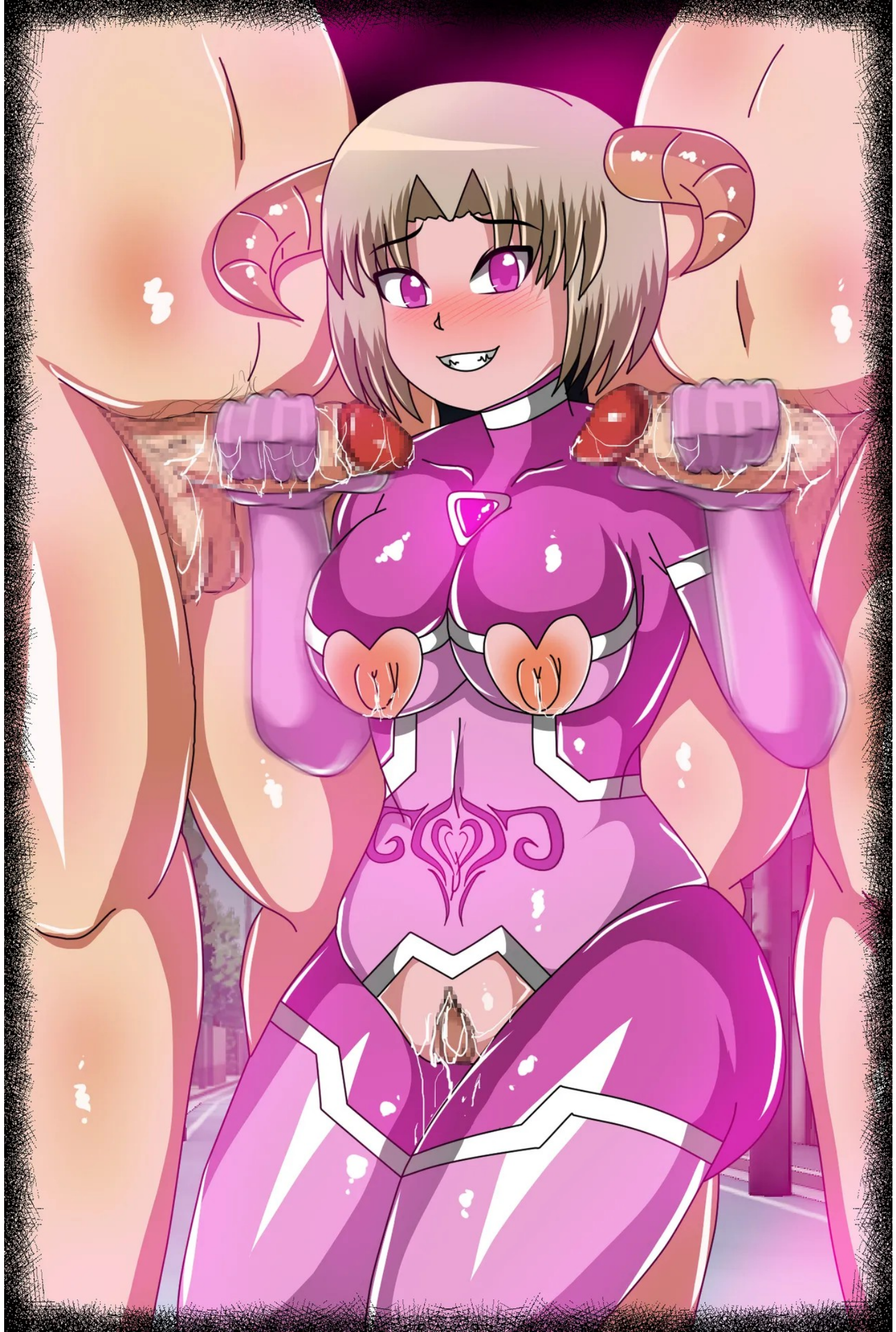


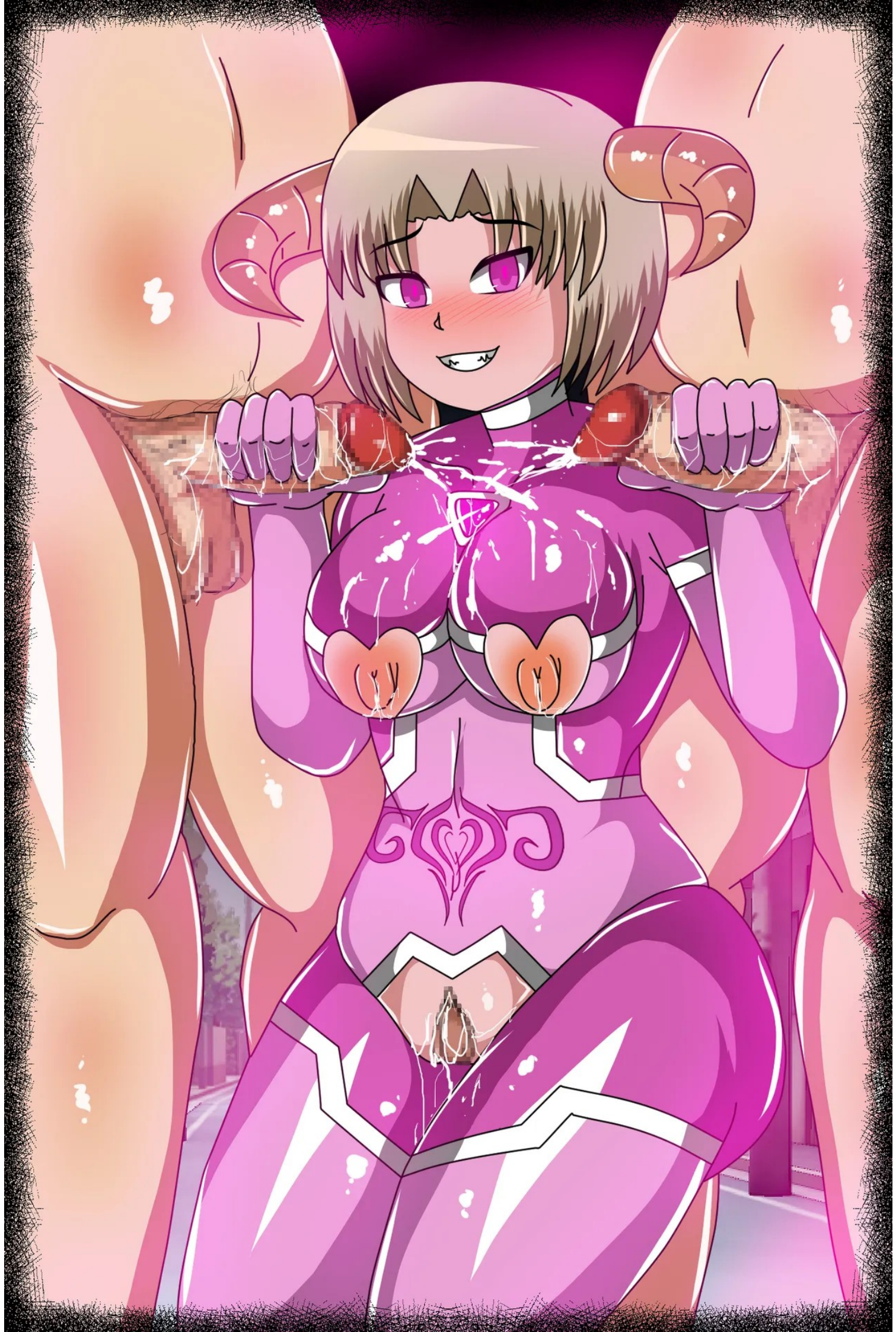


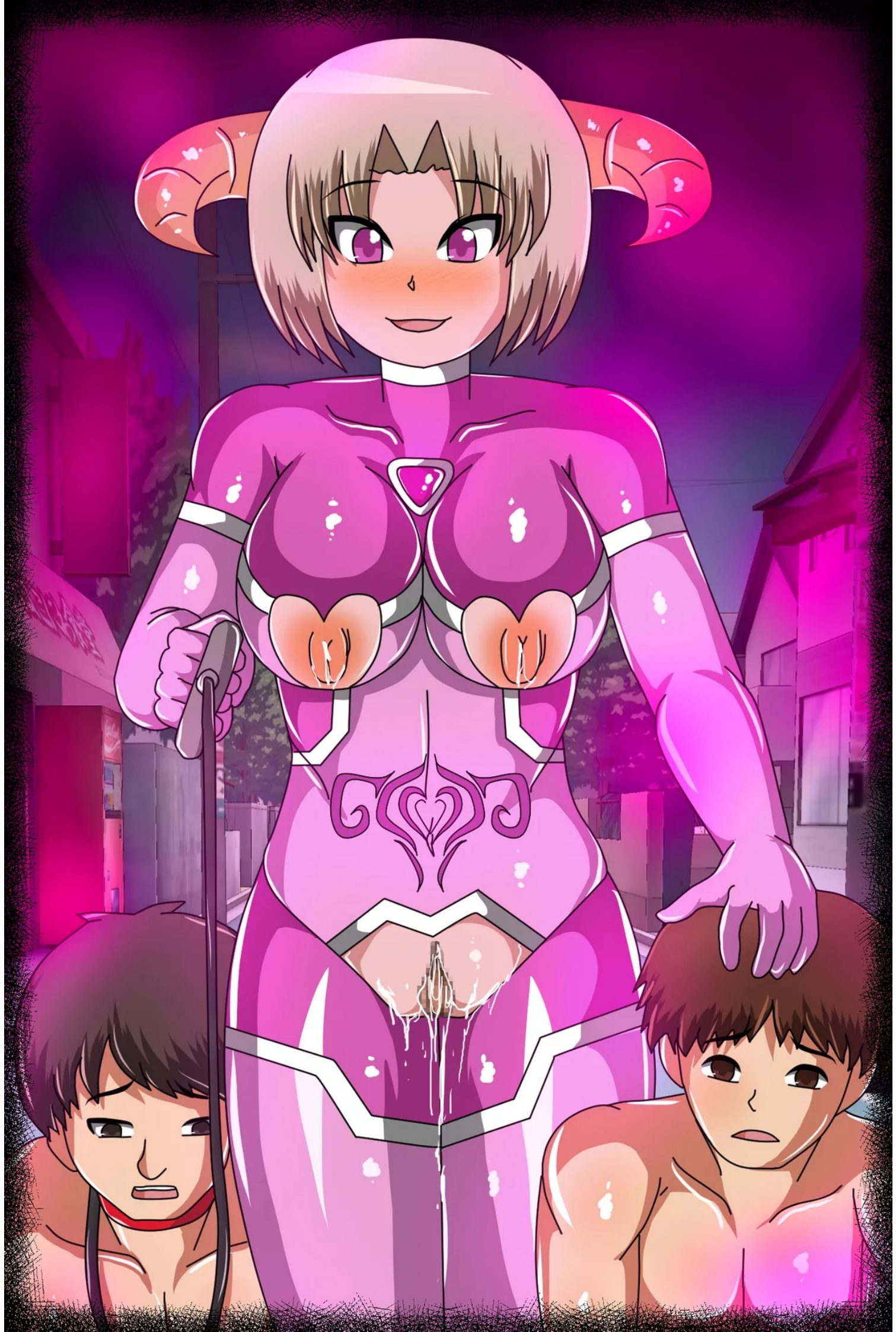


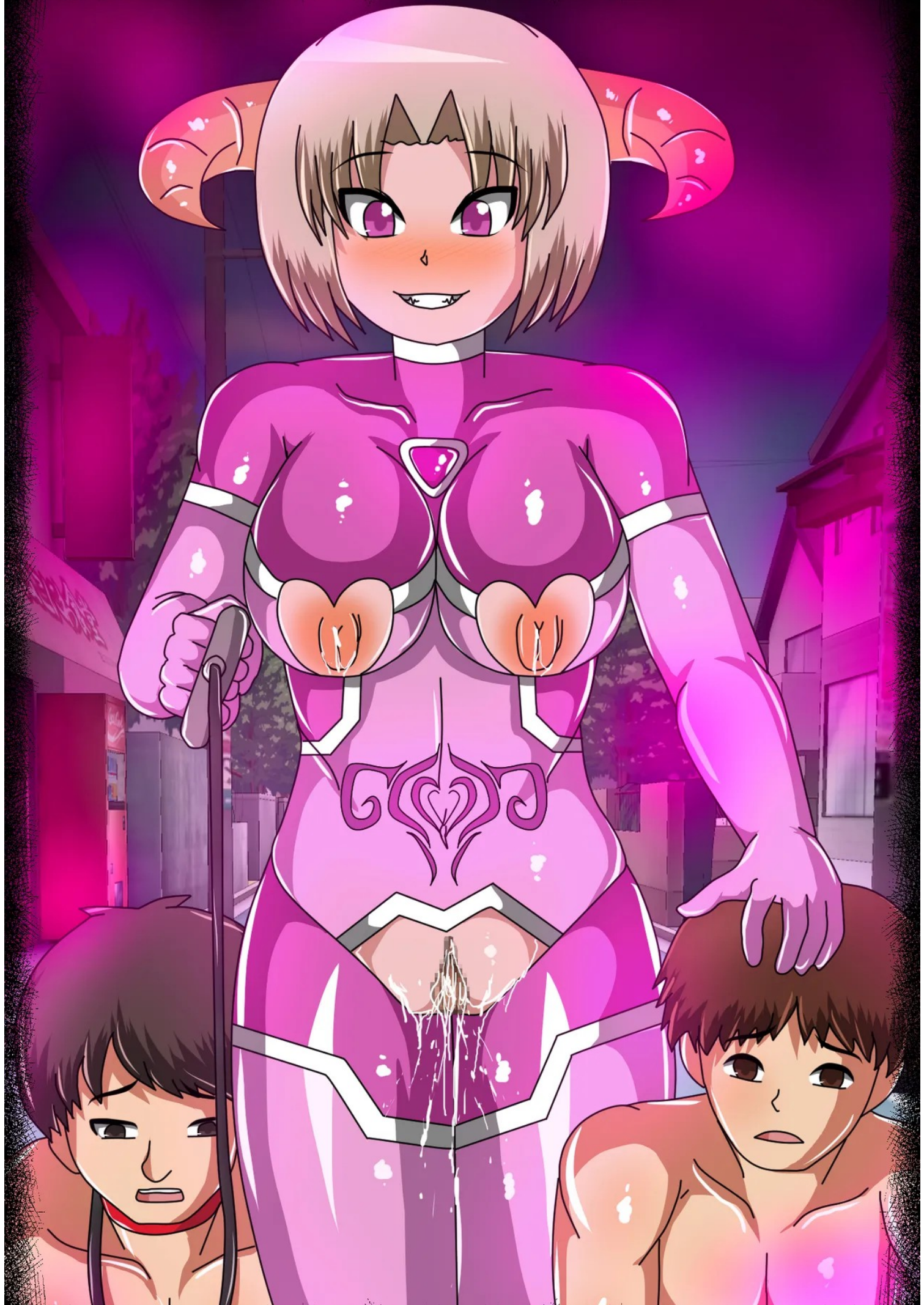
















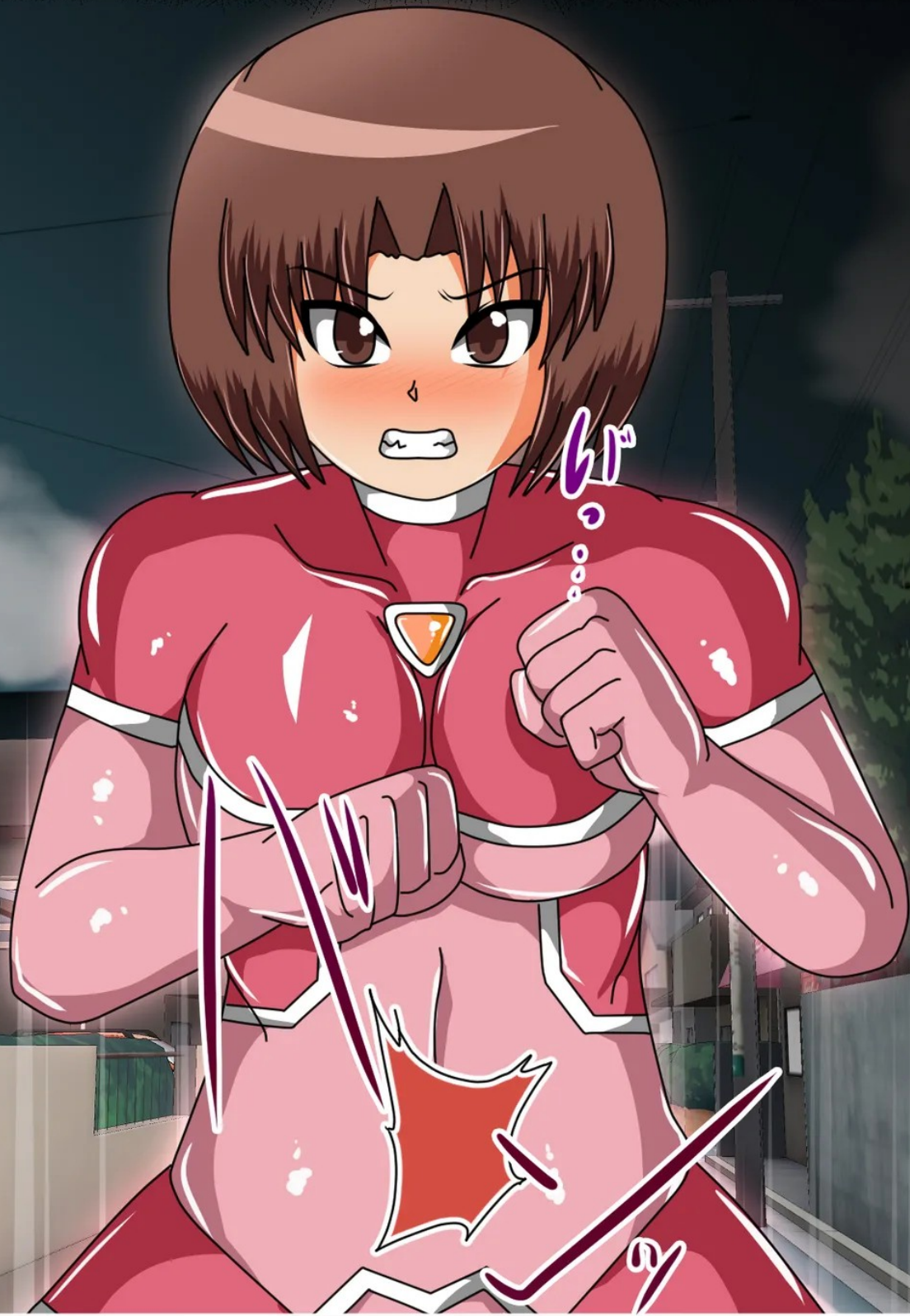
CG集画像

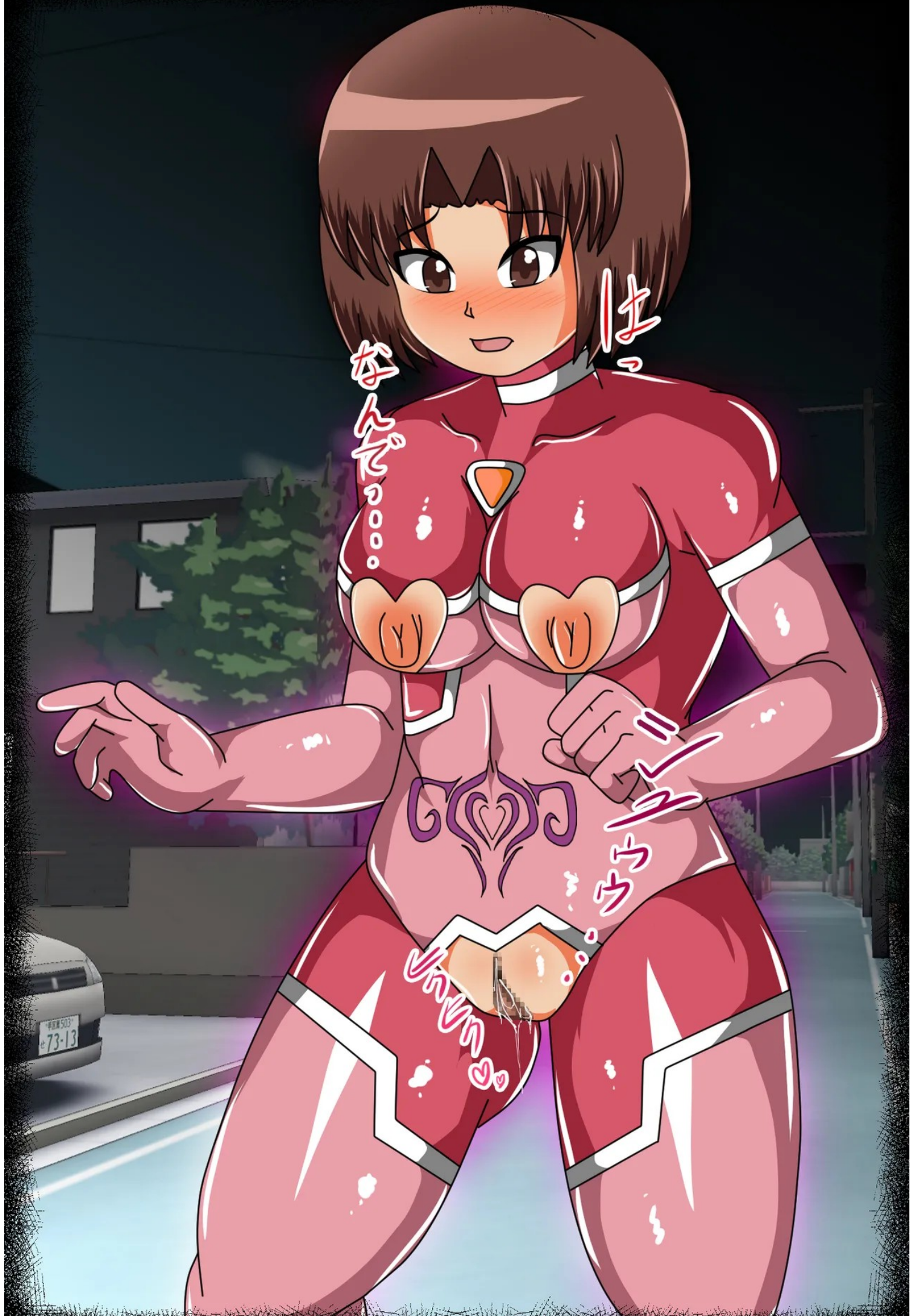
台詞無し

(効果音有り)









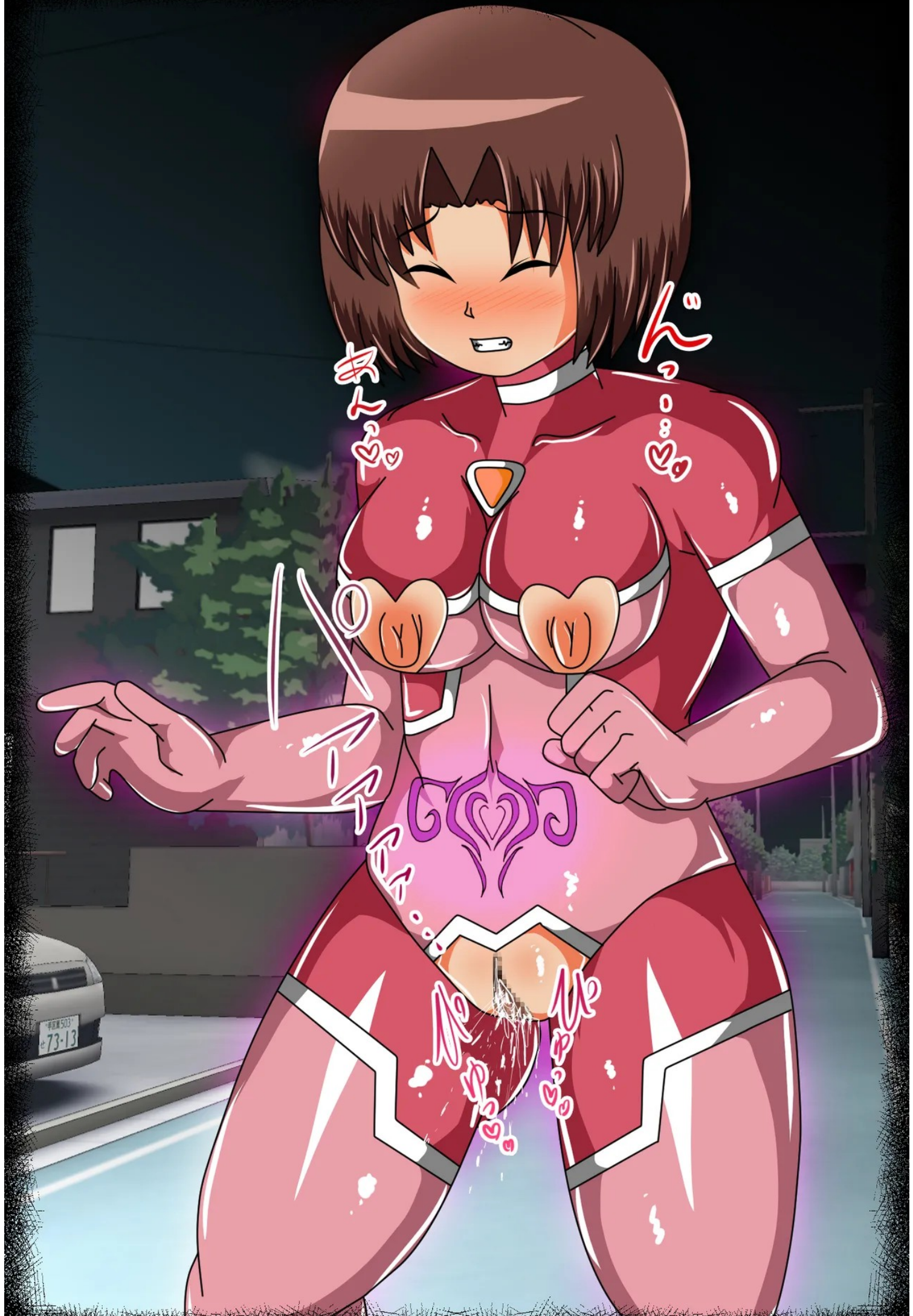
なん

はっ

うん

うん





あ
ん
こ
う
こ
う

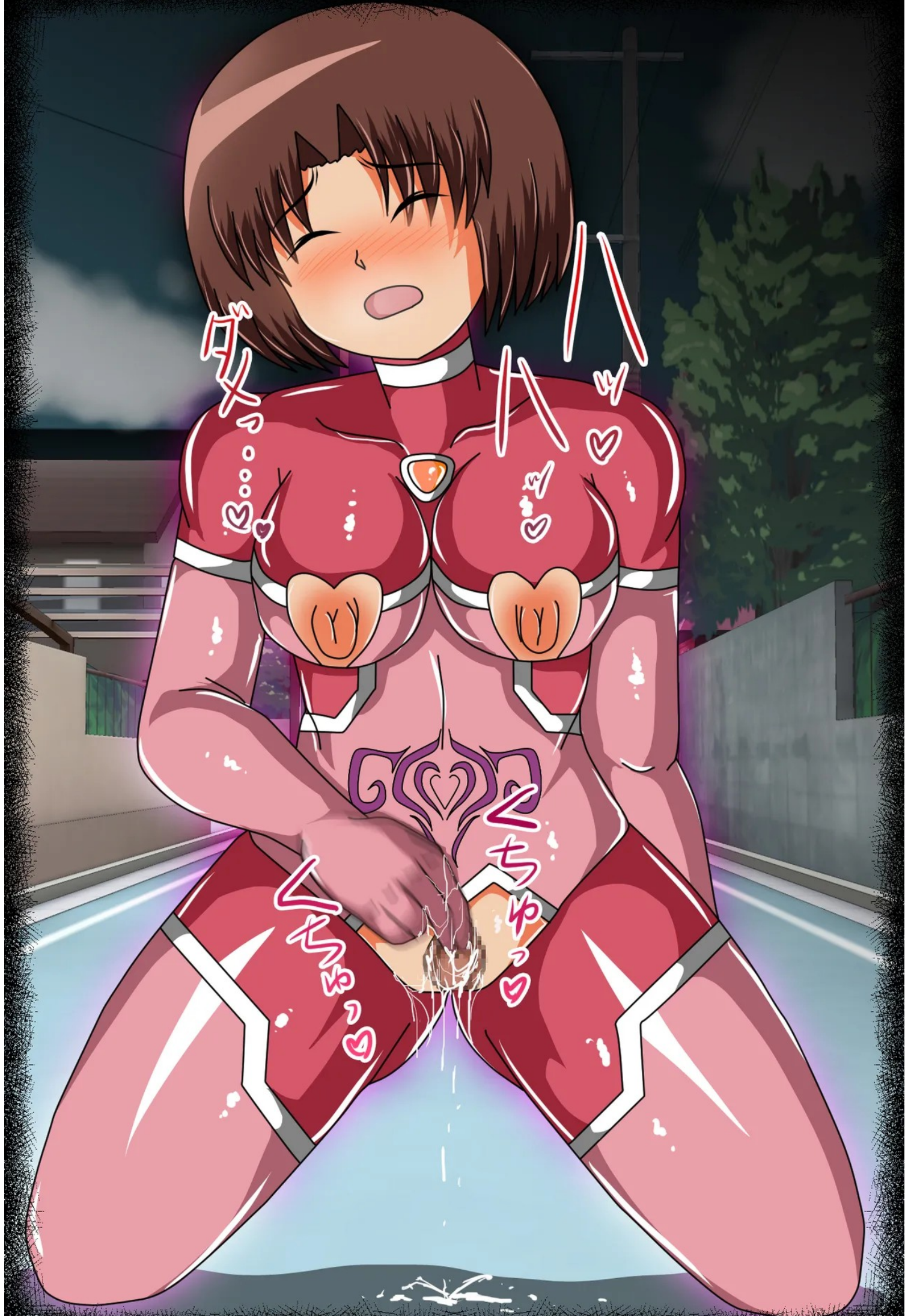
ん
こ
う
こ
う

あ
ん
こ
う
こ
う

あ
ん
こ
う
こ
う

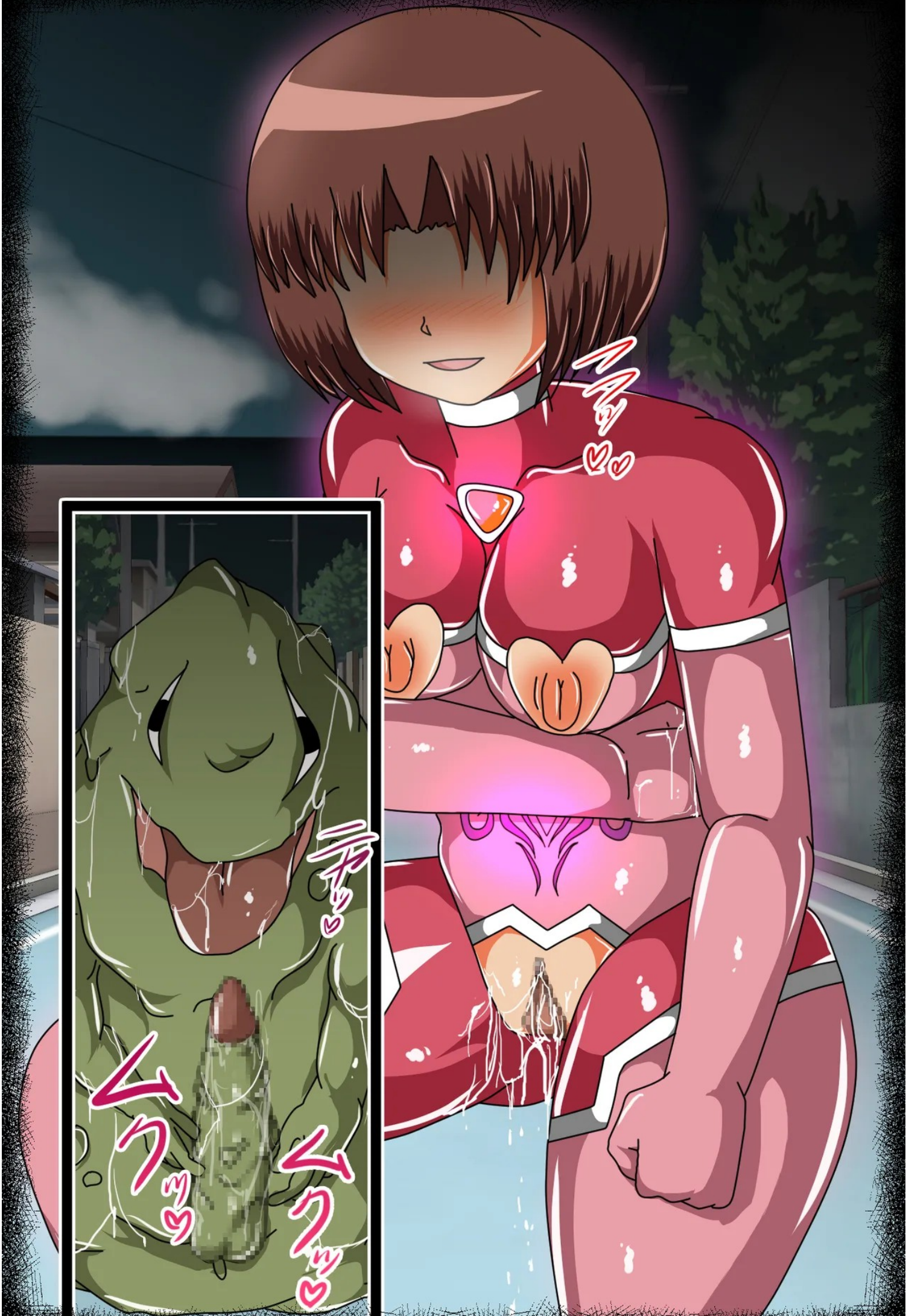
あ
ん
こ
う
こ
う









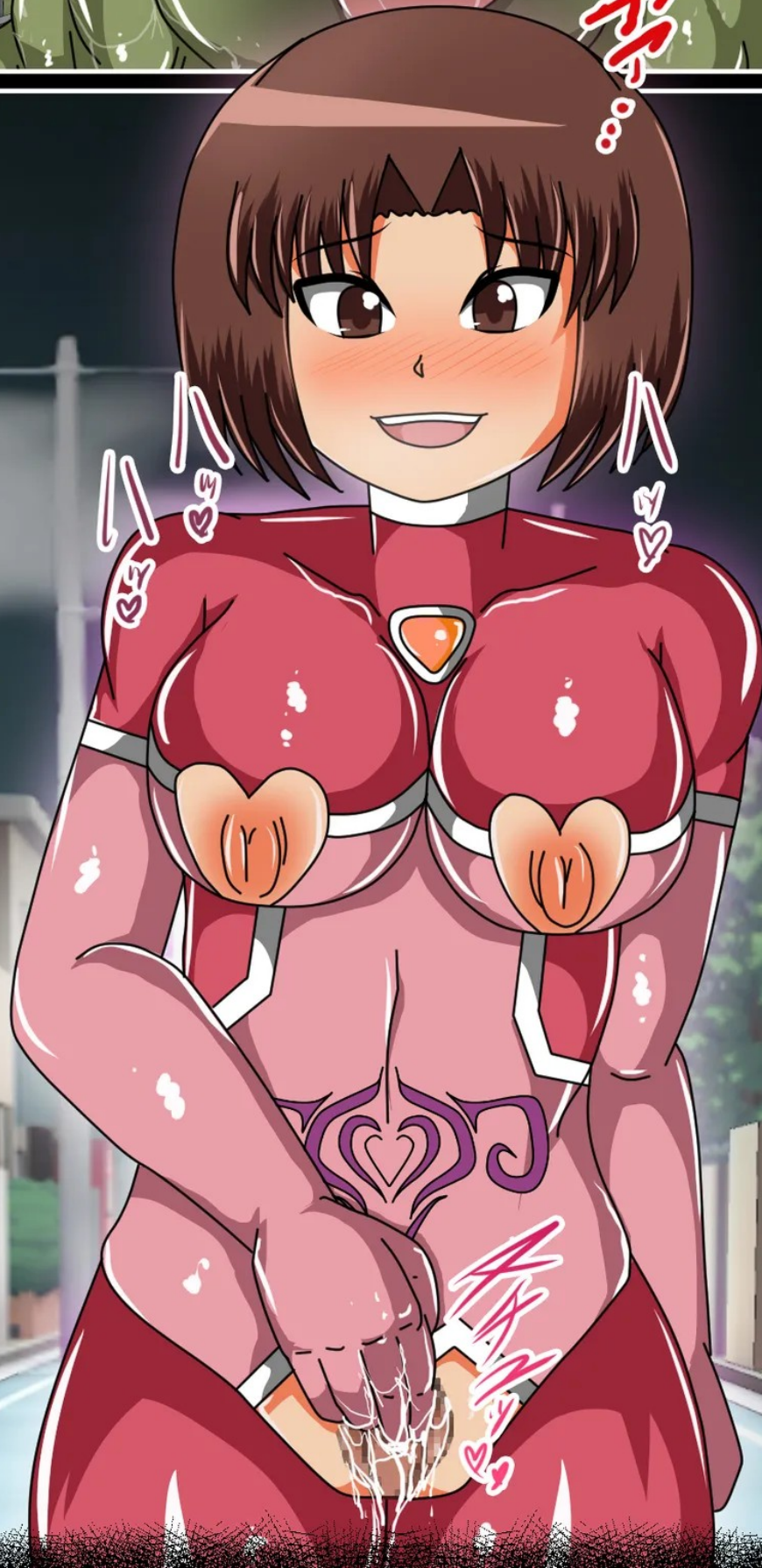


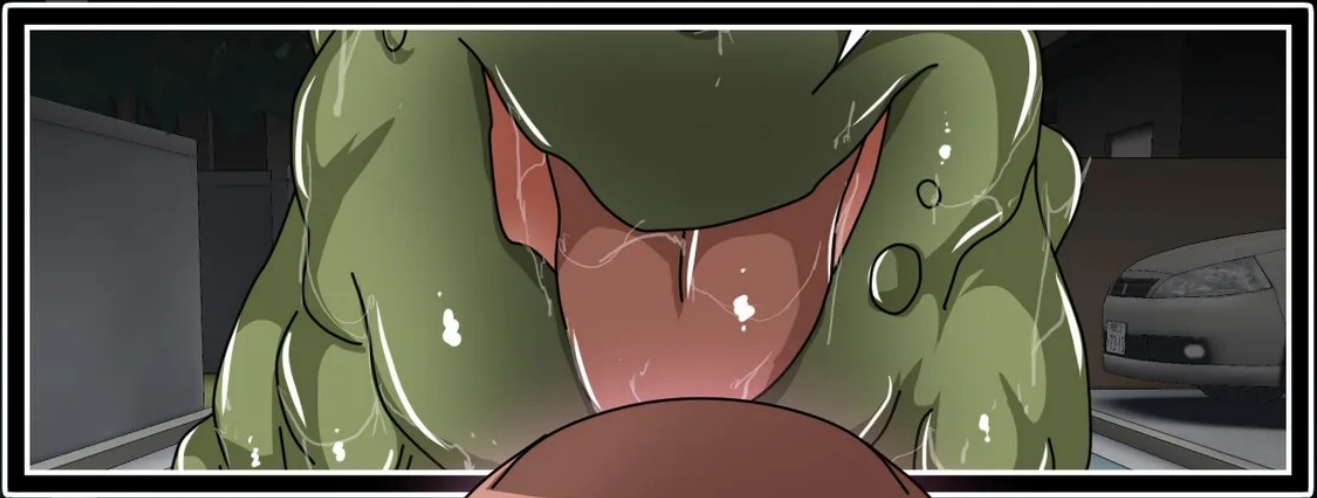
ク♡

ク♡

ク♡

ク♡







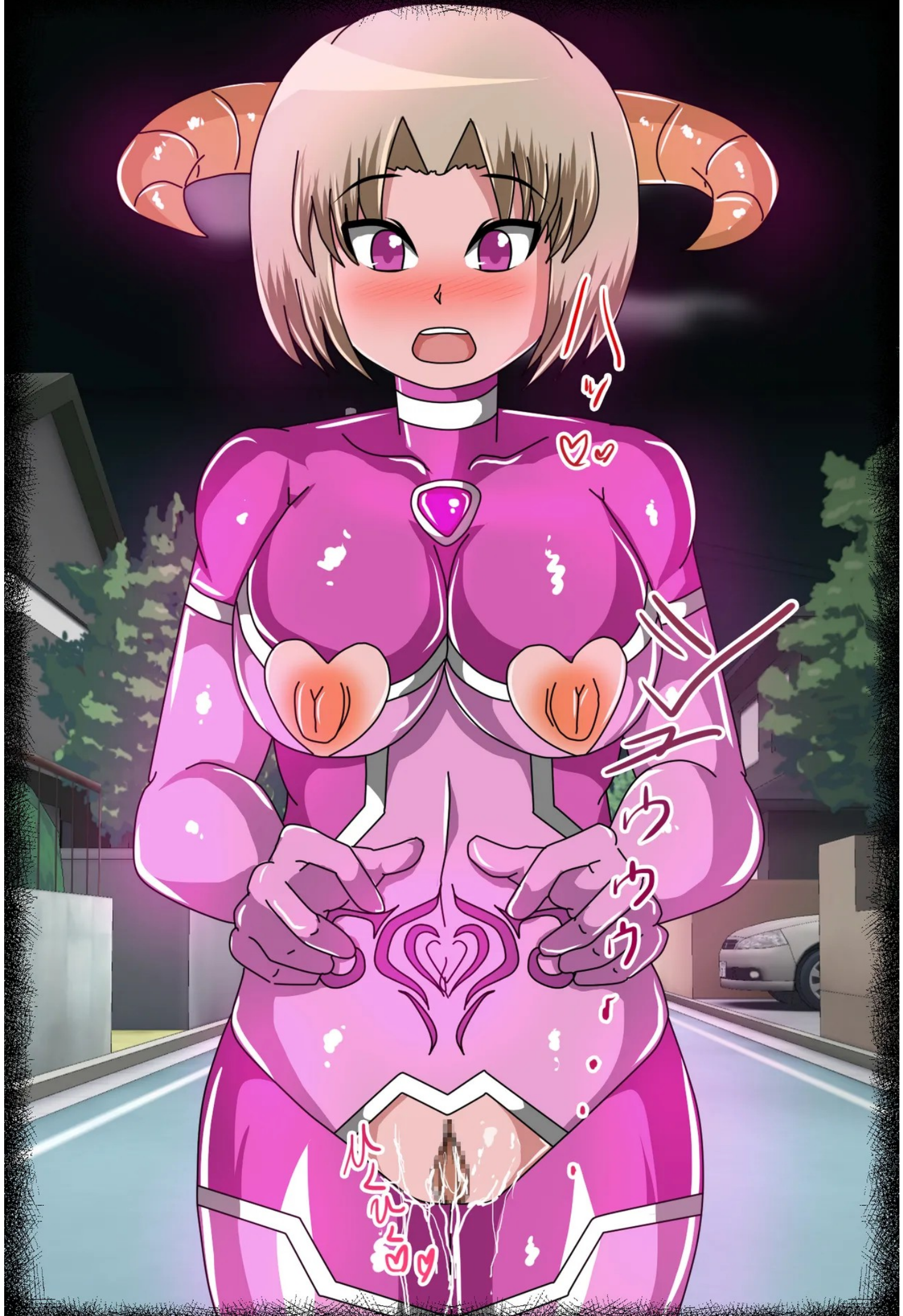
ぬちゅう

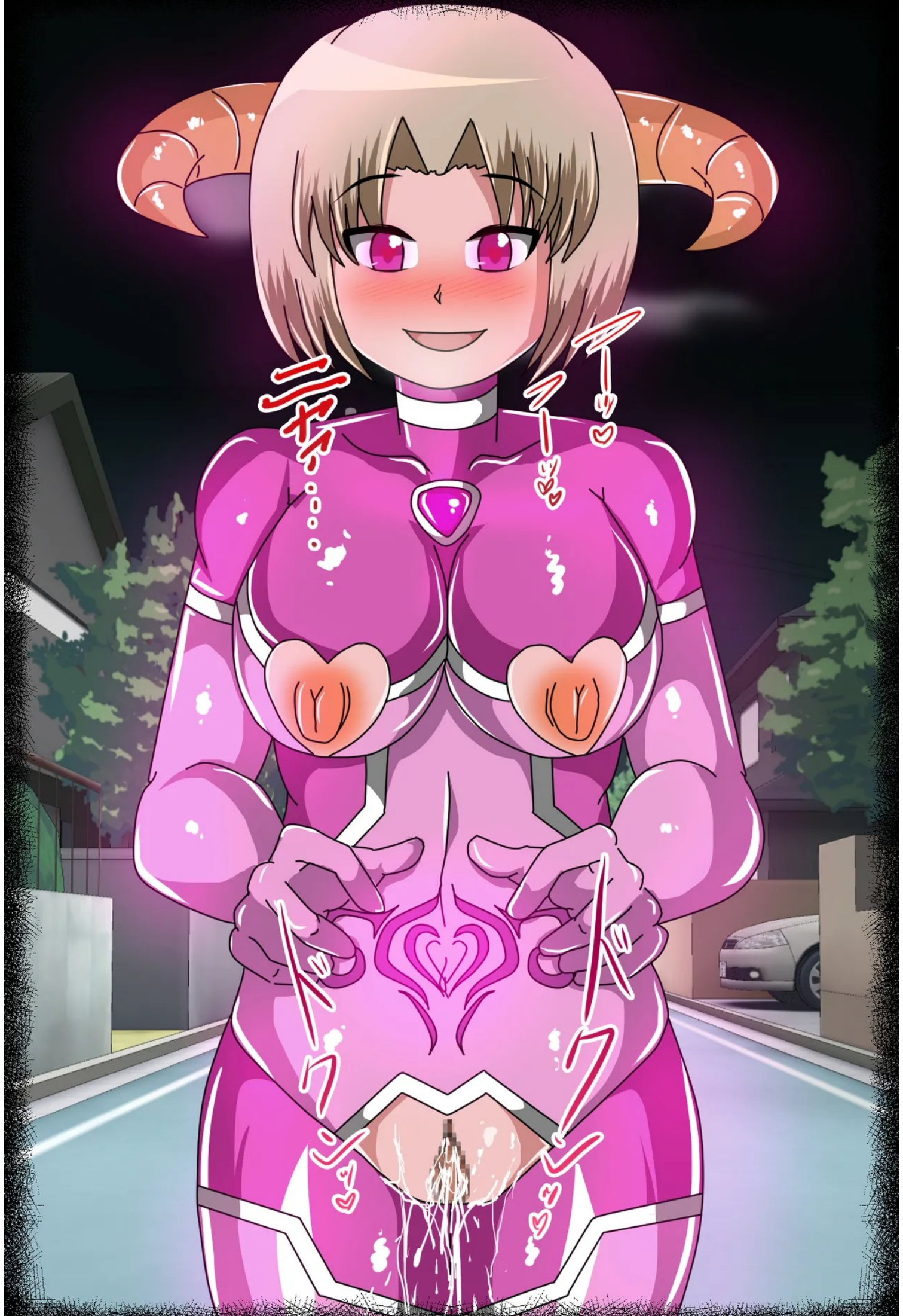
おんっ♡

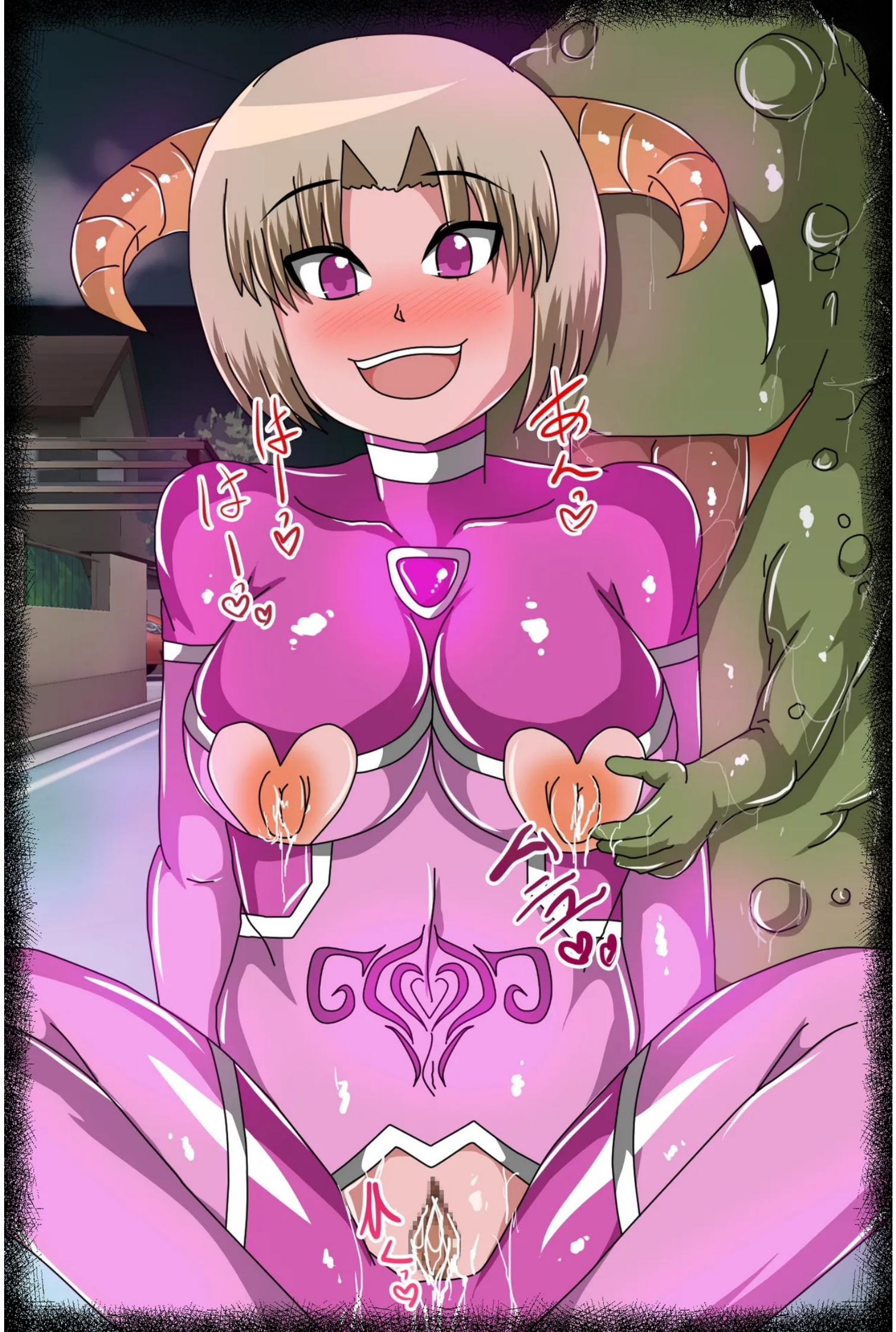
おっ♡

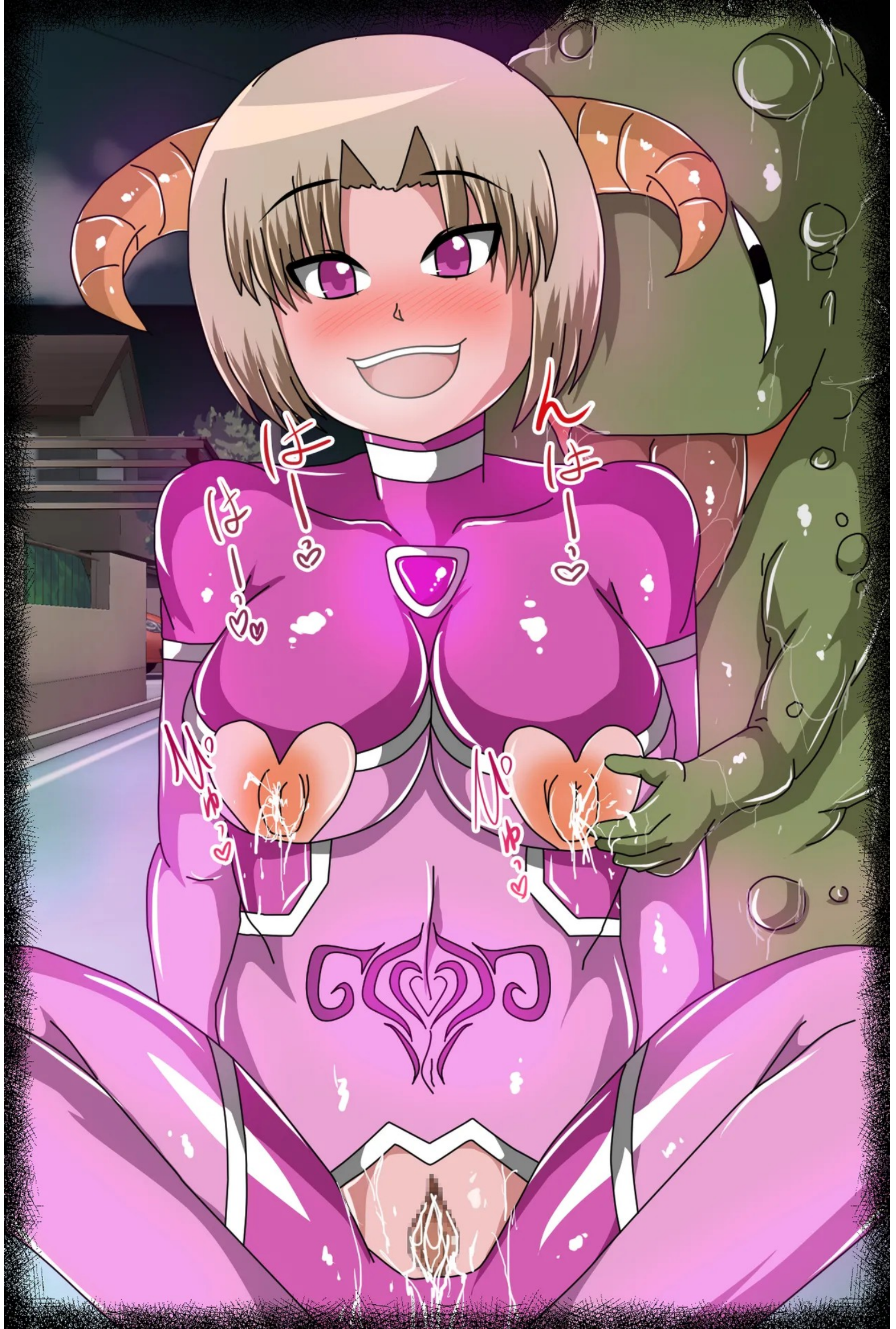


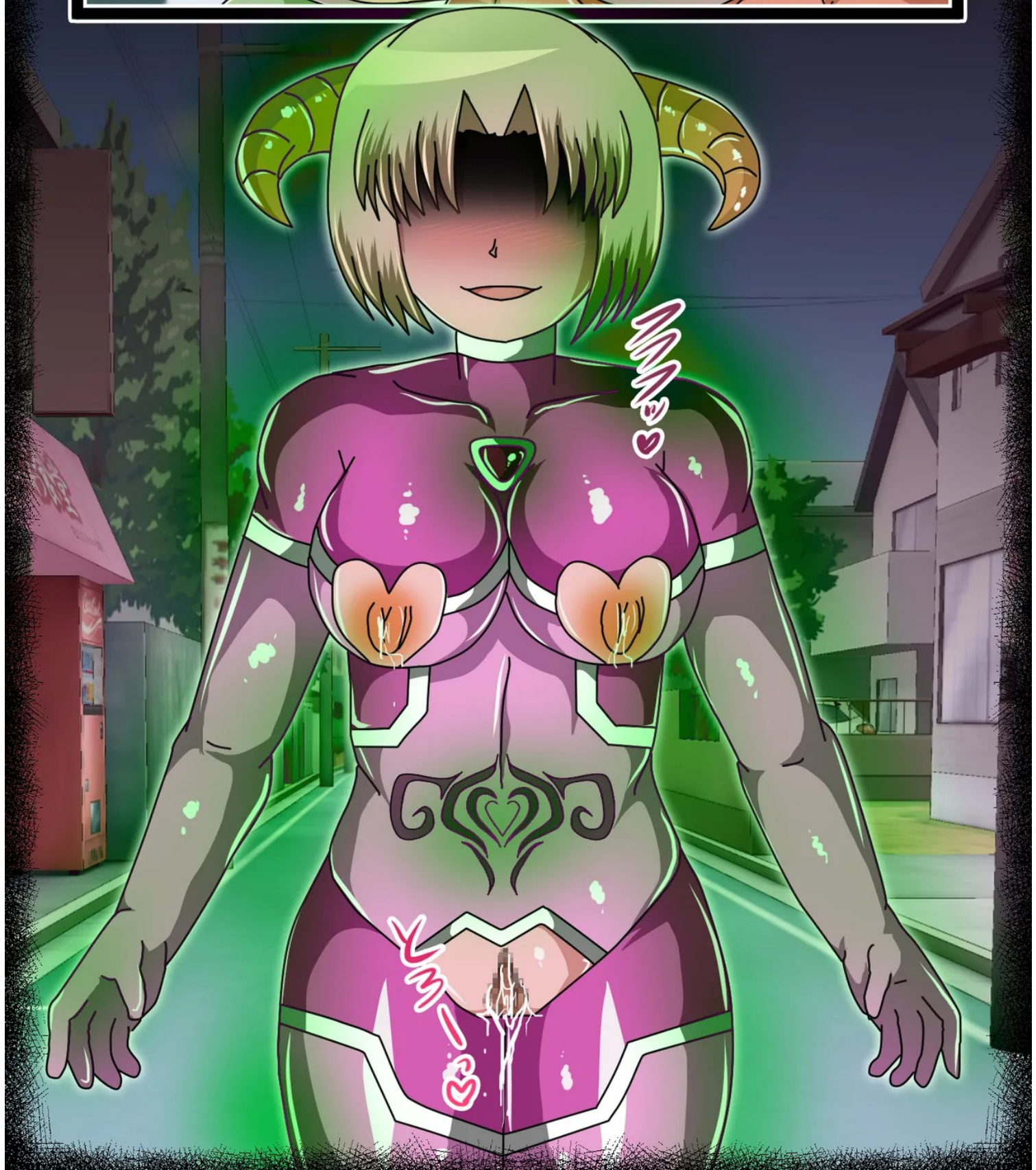


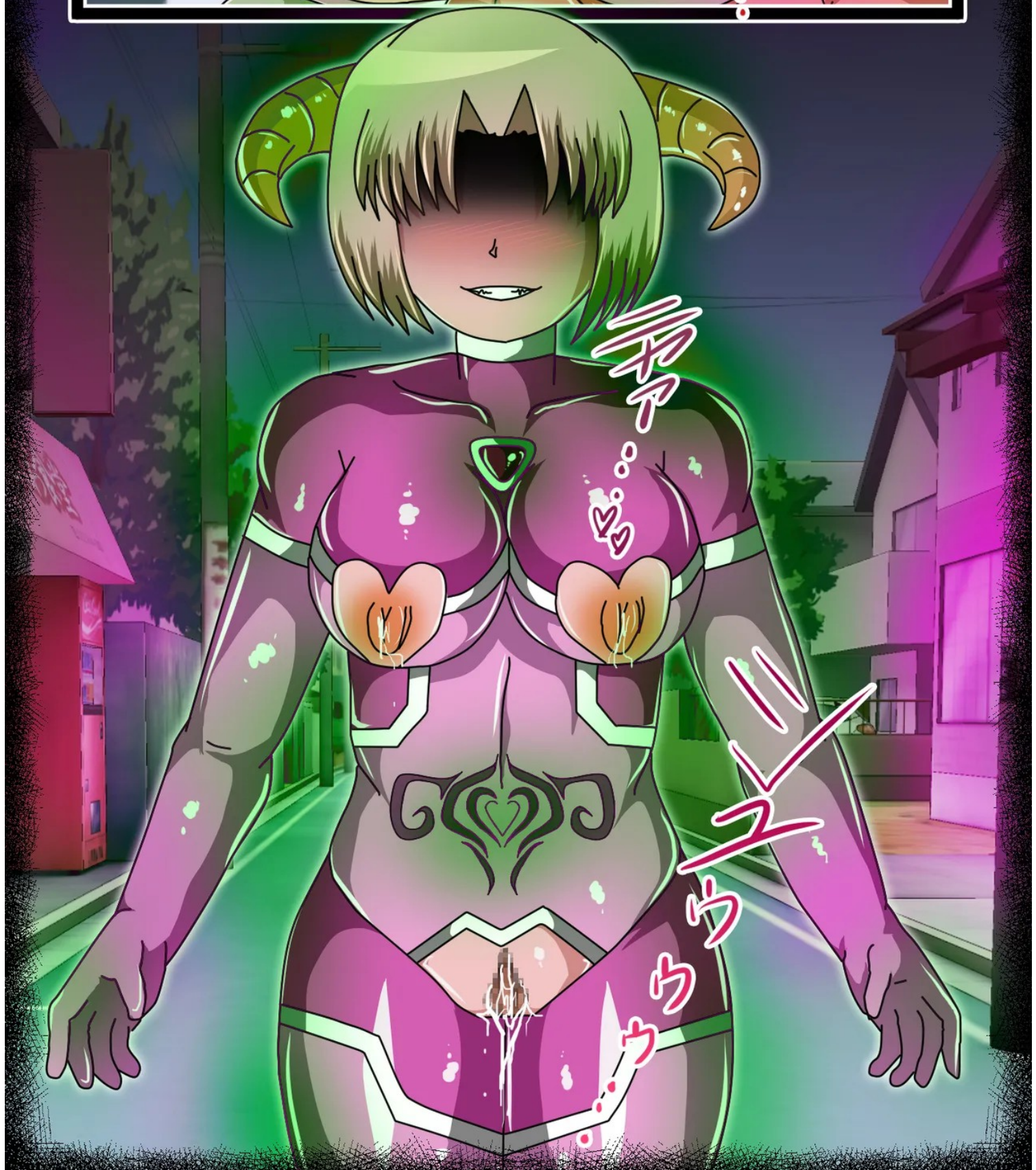














ちゅーん♡♡

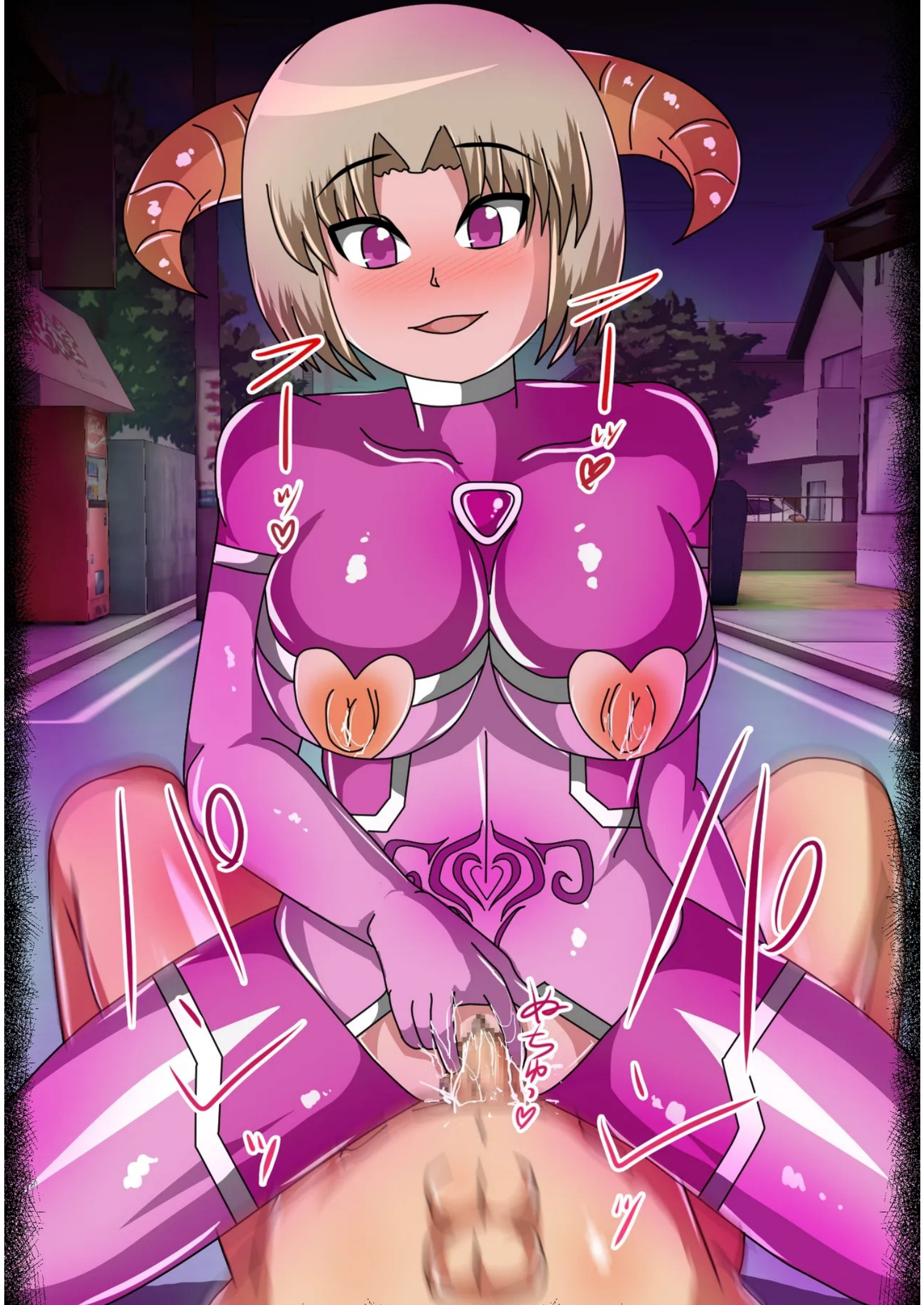
ちゅーん♡♡

ちゅーん♡





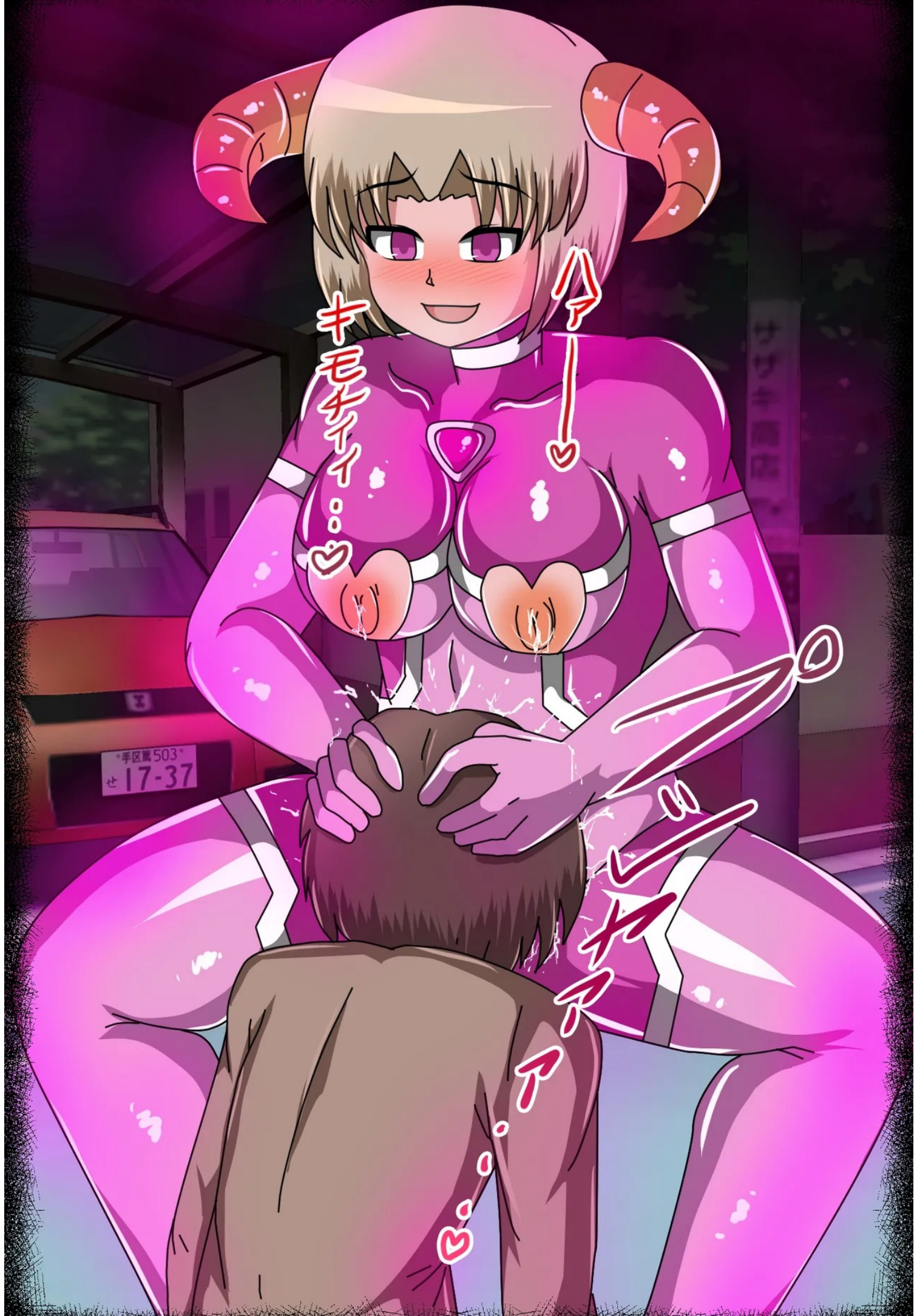












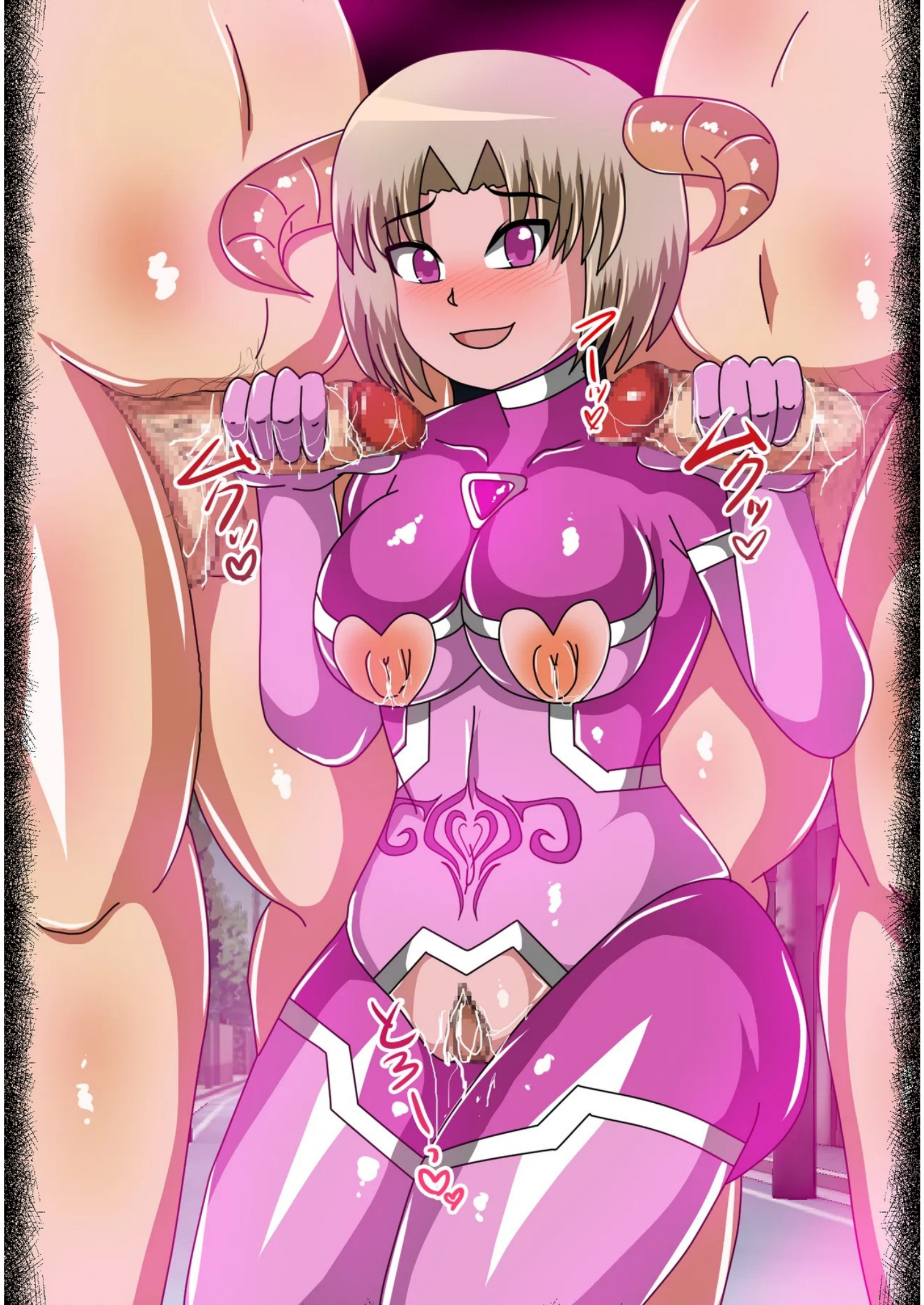
手区第503
せ17-37

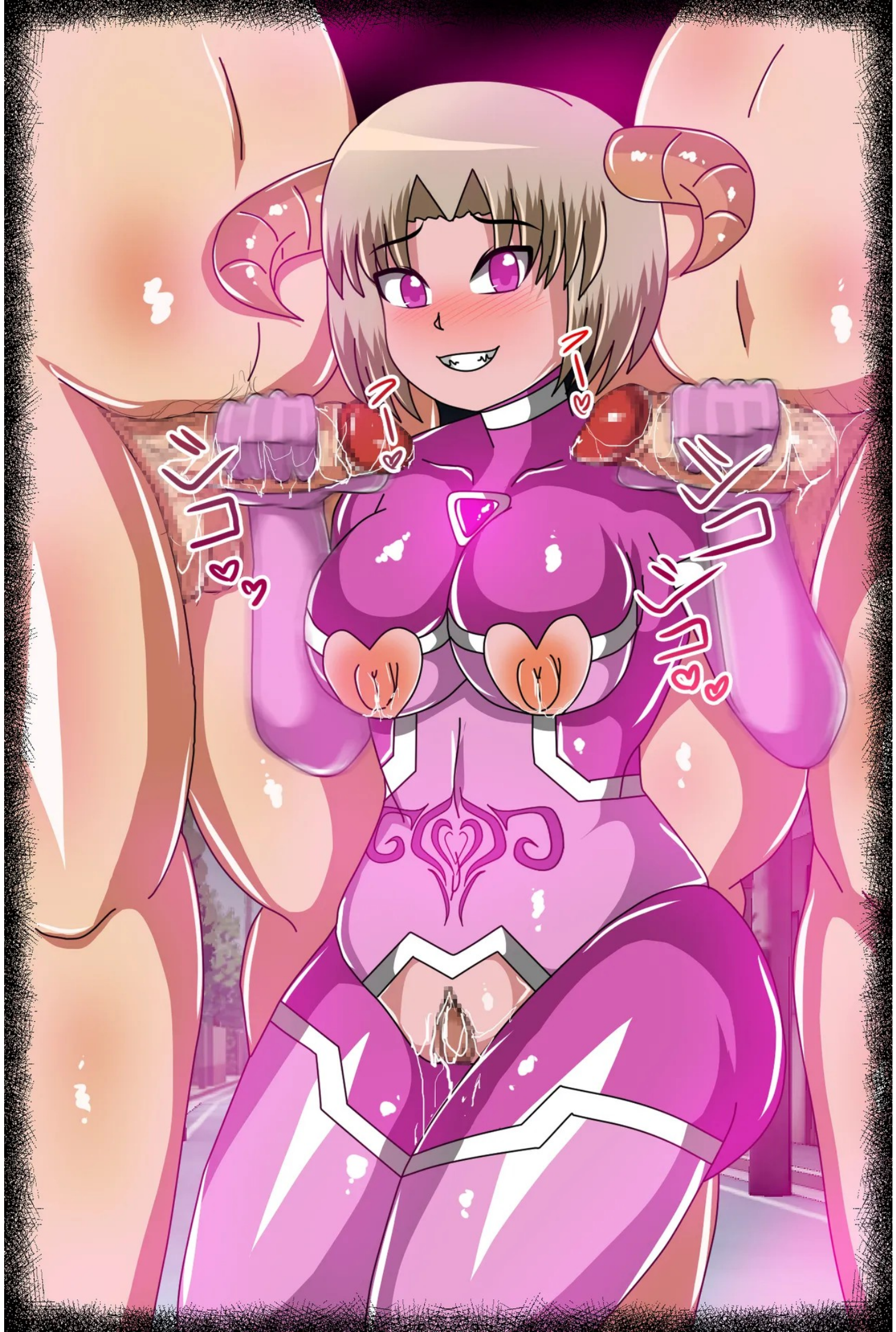
キモチイイ...

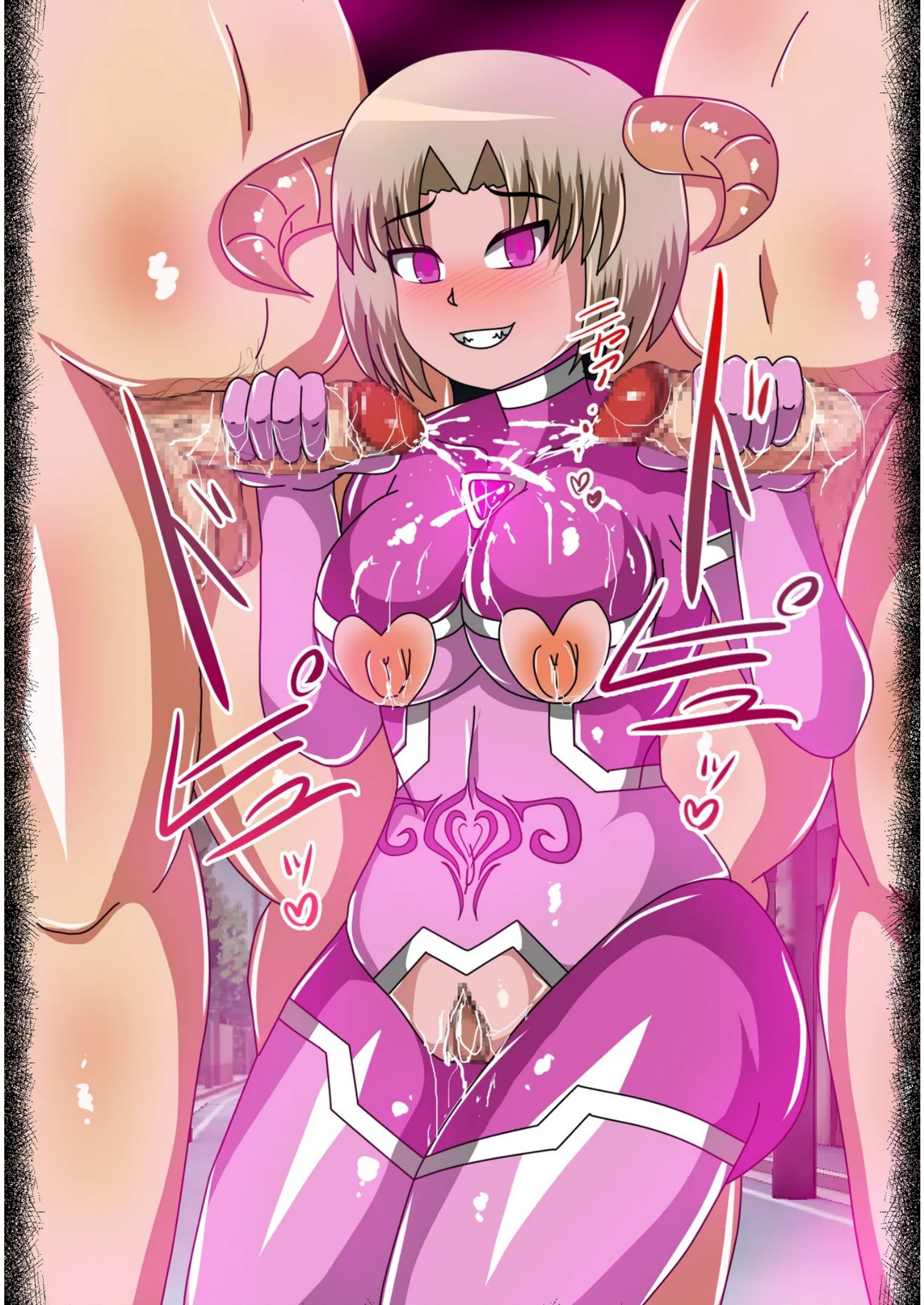
♡

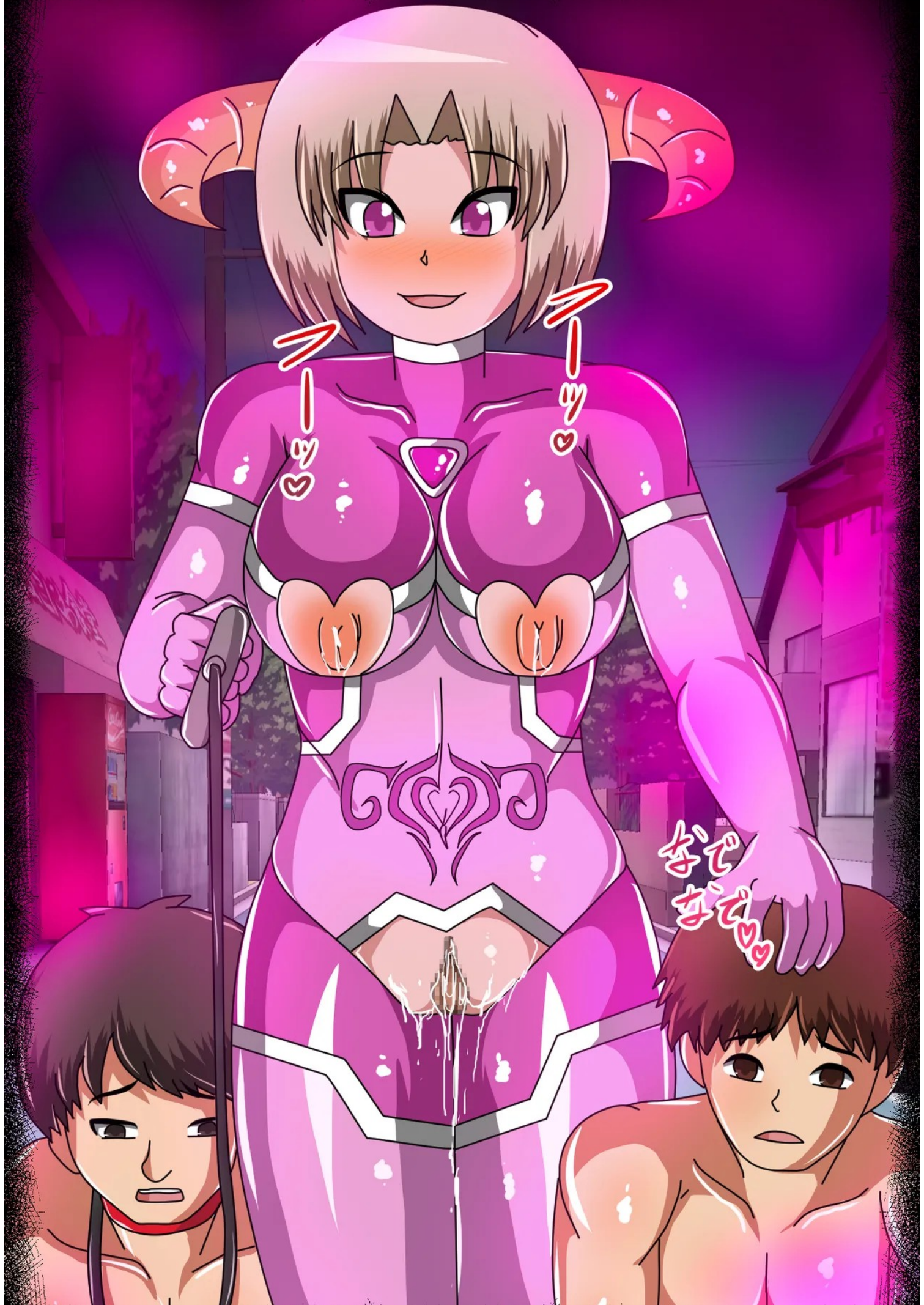
♡

♡









なで
なで♡

